SHIKIGAKU Consulting Firm 識学

仕事とプライベートに関する認識調査

株式会社識学
ワーク・ライフ・ニュー・バランス推進チーム

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

【株式会社識学について】

識学は「意識構造学」からとった造語であり、20 年以上前に提唱された組織運営理論です。
人はそれぞれ過去の経験や知識によって、その人特有の「思考の癖」を持ちます。この思考の癖によって、事実に対する認識にズレが生じ、これが誤解や錯覚となります。この誤解や錯覚こそが、組織運営に問題をもたらす原因となります。
弊社では、思考の癖に紐づく誤解や錯覚の発生要因を特定と、これを発生させないためのマネジメント手法を体系化、基幹理論として整備し、組織コンサルティング事業で展開しております。

【調査レポートについて】

株式会社識学では定期的に調査レポートとして、「”金髪の社長”に関する調査」や「いい上司に関する調査」、「飲みにケーションに関する調査」など様々なデータを公開しております。
※過去の調査レポートは下記リンクをご参照ください。
https://corp.shikigaku.jp/document/survey_report

過去には新聞やテレビといったオールドメディアにも何度も取り上げていただいたこともございます。

【今回の調査について】

そのようなテーマの中で今回は「**仕事とプライベートに関する認識調査**」と題して、調査レポートを作成しました。
作成の背景としては、ワークライフバランスや働き方改革など仕事とプライベートの関係が話題になることが多い昨今ですが、実際に仕事とプライベートはどのような関係があるのかについて知るために本調査を行いました。

【調査方法】

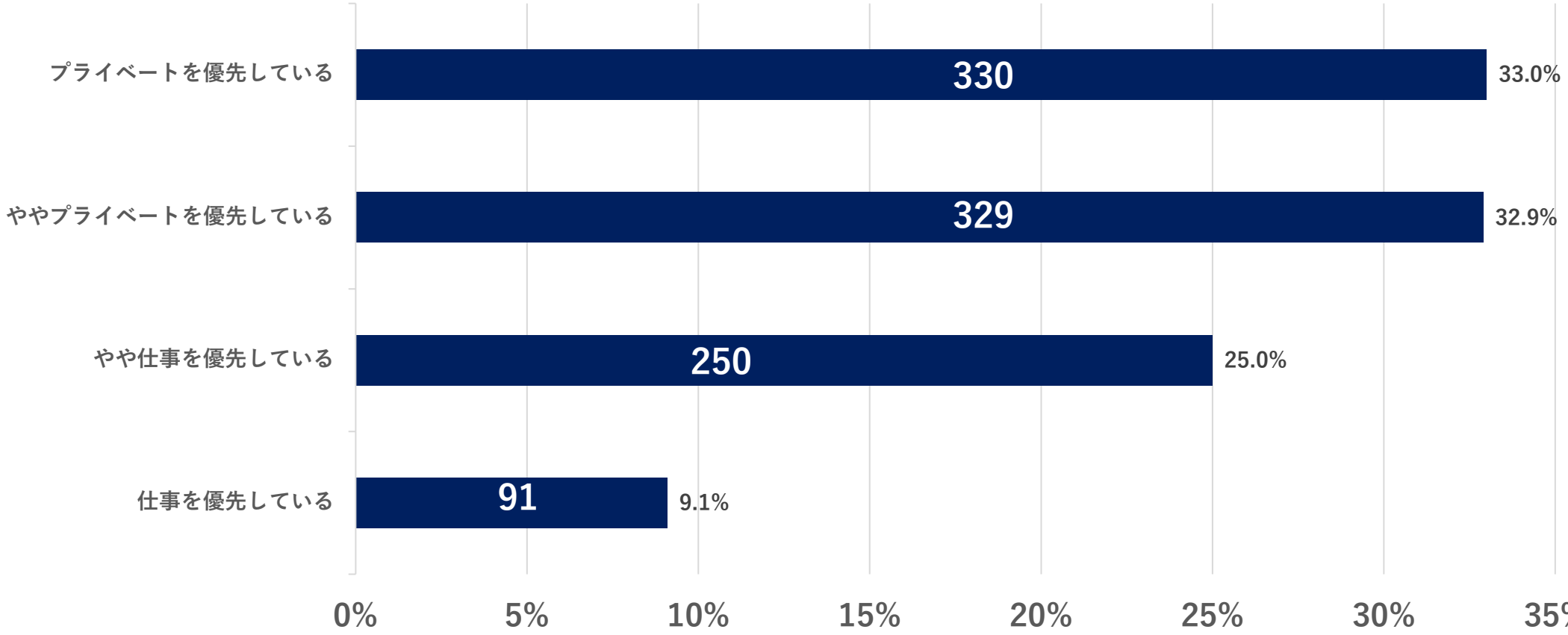
20代から50代の男女1,000名にWEB上でのアンケートを行いデータを集計しました。尚人数は均等に取得しており、各年代それぞれ250名ずつ（男女それぞれ125名ずつ）となっております。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q1　あなたは仕事とプライベートどちらを優先していますか

識学

あなたは仕事とプライベートどちら
を優先していますか。

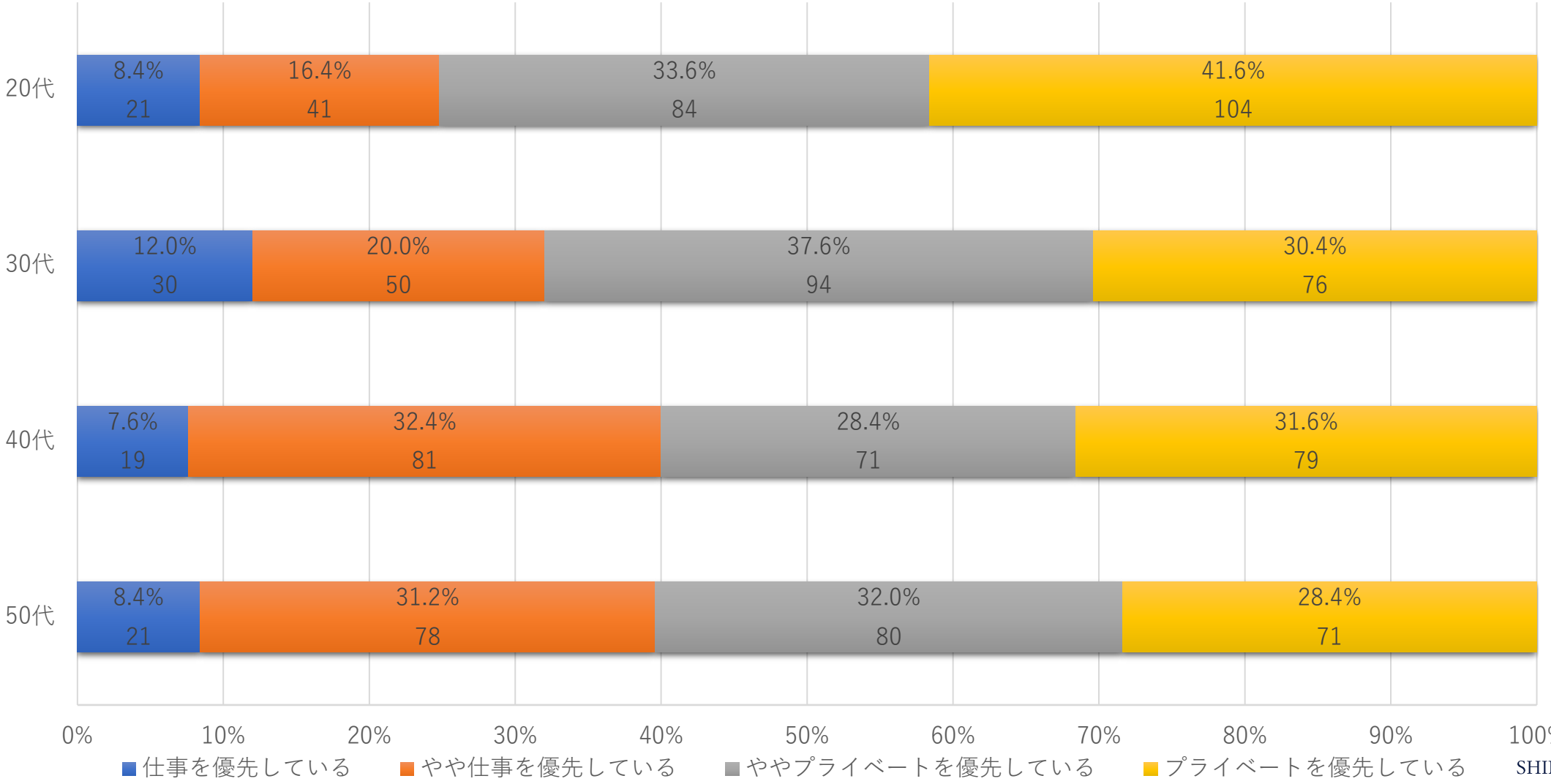


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q1　図１（年代別）

識学

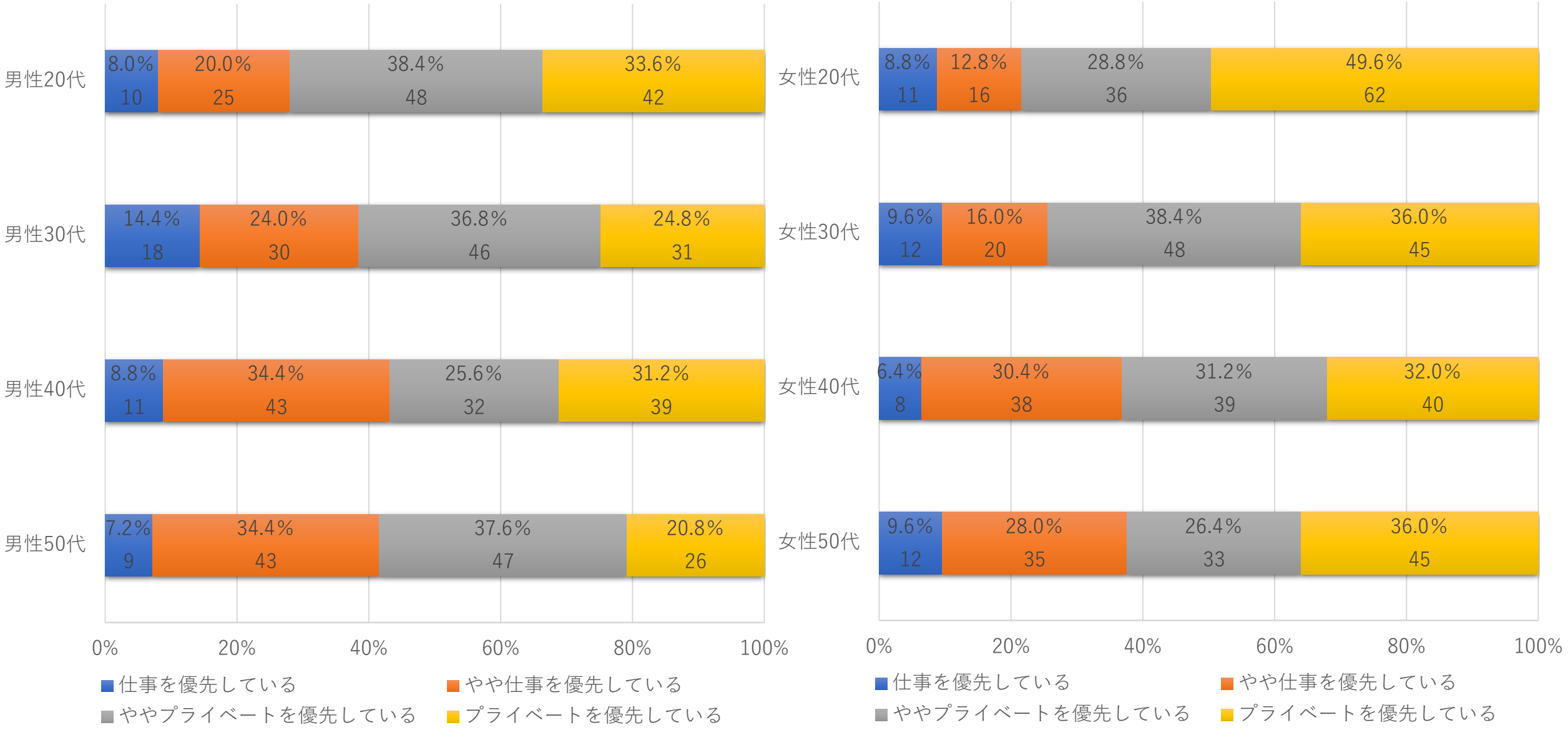


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q1　図2（性年代別）

識学



SHIKIGAKU CO., LTD.
Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目では「仕事とプライベートどちらを優先しているか」に対する回答をそれぞれ年代別、性別別にグラフ化したものです。

【30代までと40代からで見えた差】
図1のグラフを見ると「仕事を優先している」または「やや仕事を優先している」の回答した方は、20代が24.8%、30代が32.0%、40代が40%、50代が39.6%という結果になりました。このように数字で見てみると、30代と40代の間でおおよそ8%もの上昇がみられます。この結果は単に40代以降の方が仕事を比較的優先しやすいというだけではないと考えられます。なぜなら、令和3年に内閣府が調査した第一子が生まれる平均年齢を見てみると、女性平均年齢が28.0歳・男性平均年齢が30.7歳となっています。そのため、平均で見ると中学・高校・大学とこれから費用が掛かるタイミングが40代であり50代になるということが分かります。すなわちこの結果は言い換えるならば40代・50代といった年齢は「仕事を優先する必要がある人が増える」年代の為、このような結果が出たのではないかと推測できます。（参照：https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r04/zentai/html/column/clm_04.html）

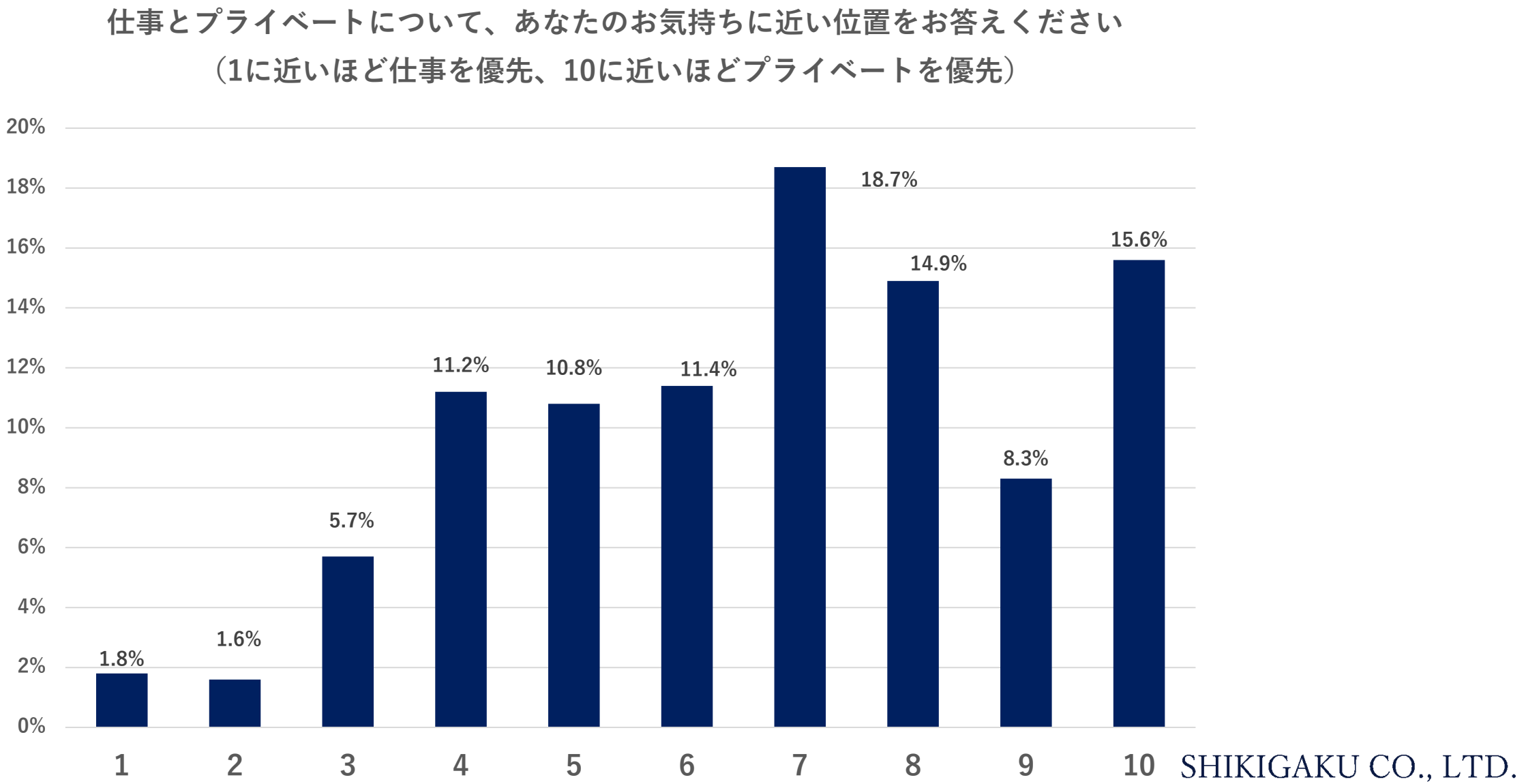
【性年代で見たときの20代と30代以降の違い】
先ほどまで、年代ごとにまとめた図1のグラフについて見てきましたが、次は性年代別の図2を見ていきたいと思います。図2によると、「仕事を優先している」または「やや仕事を優先している」と回答した方は上から順に40代男性43.2%・50代男性41.6%・30代男性38.4%となっており、続いて50代女性が37.6%・40代女性が36.8%という並びになっています。一方で20代男性は28.0%・ 20代女性は21.6%となっており30代女性も25.6%ではあるものの20代は男女ともに仕事を優先している方の割合が少ないという結果になりました。こちらも理由としては30代以降の方が結婚や出世といったライフイベントを迎えていく中で、「仕事を優先する方」が増えていっていると言えるのではないでしょうか。

【まとめ】
「仕事を優先する=プライベートを優先しない」ということではありません。プライベートを充実させるために、仕事を優先するタイミングが30代以降に来る方の割合が増えているということをこのグラフは示していると考えられます。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q２仕事とプライベートについて、あなたのお気持ちに近い位置をお答えください

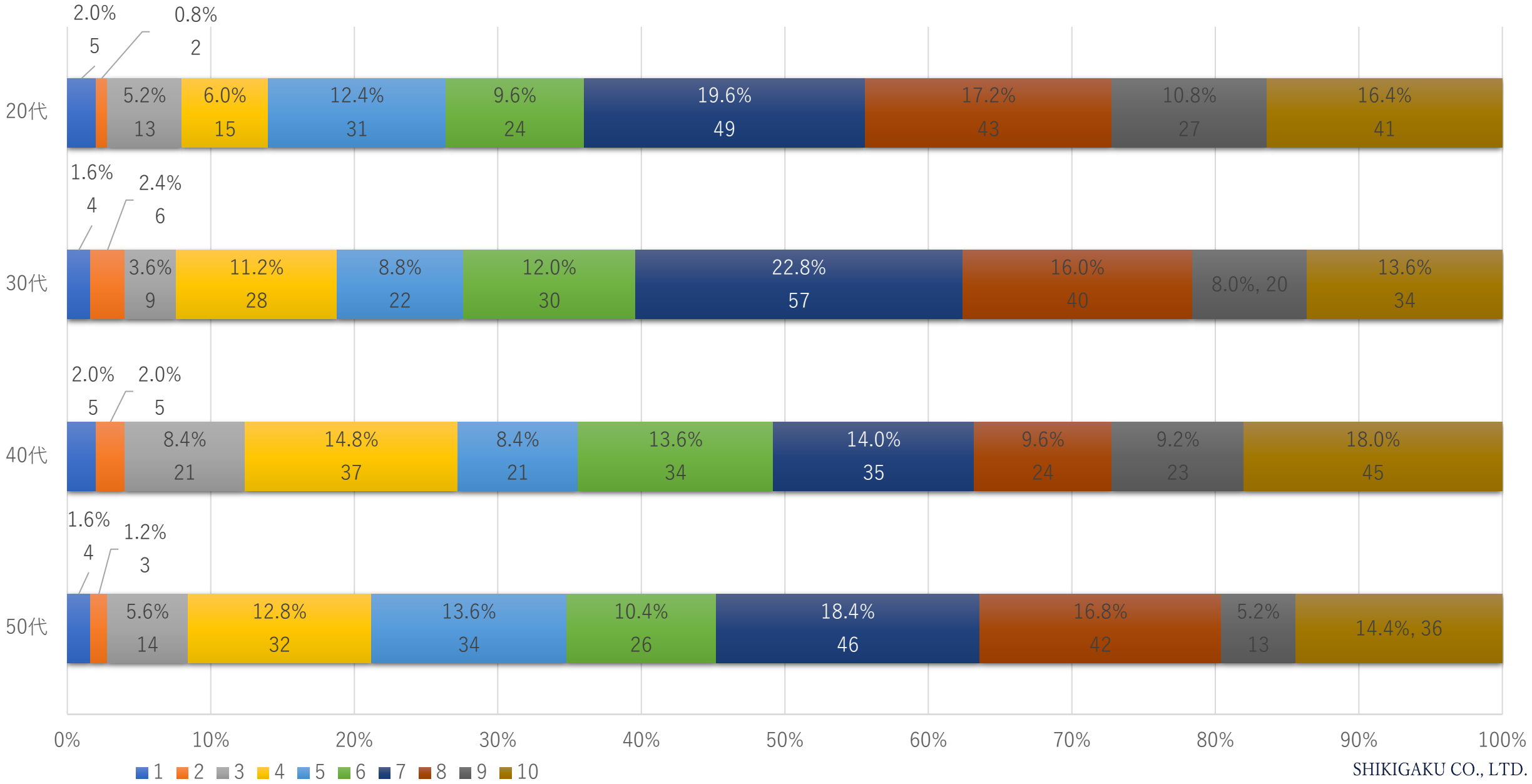
識学



Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q2　図1（年代別）

識学

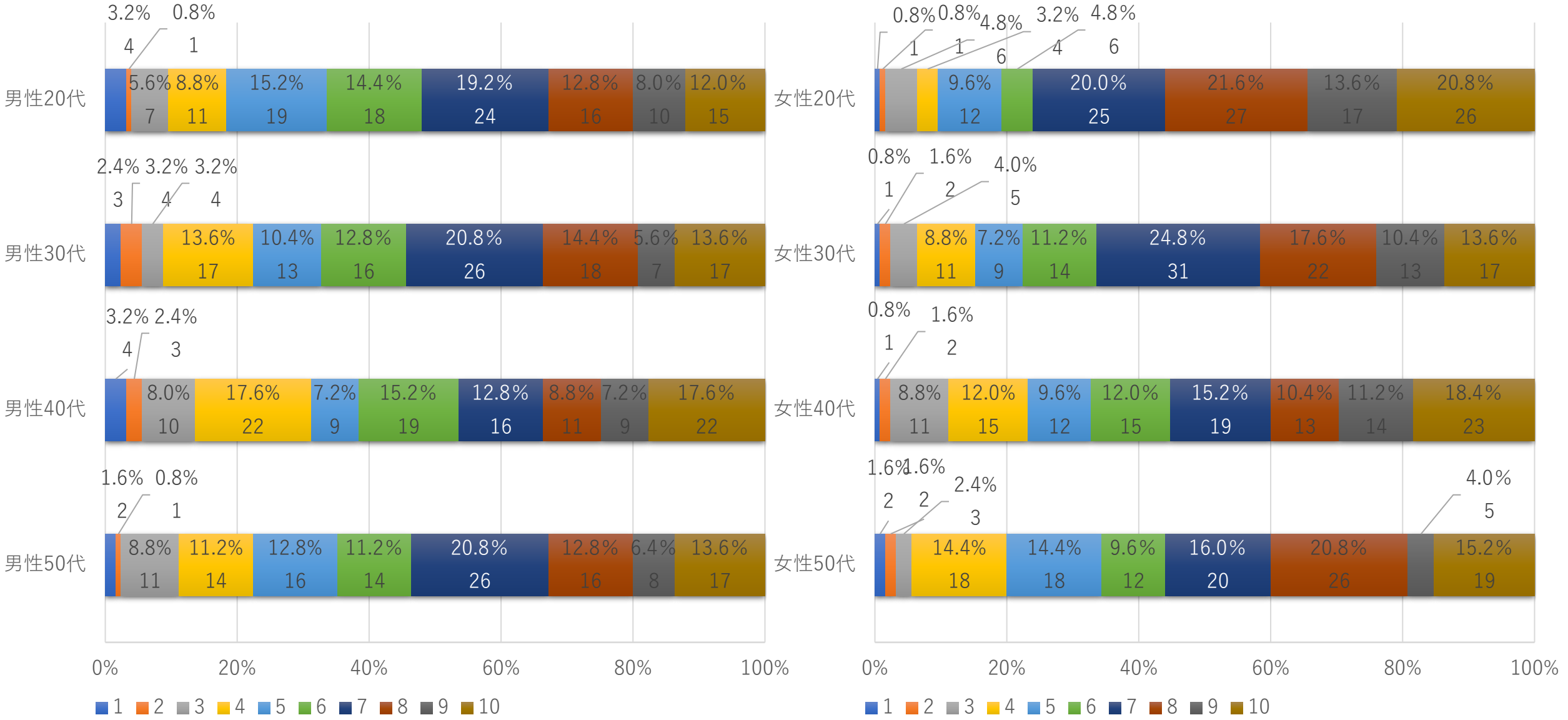


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q2　図2（性年代別）

識学



SHIKIGAKU CO., LTD.
Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目では仕事とプライベートの優先度を1~10までの10段階で表したもの（1に近いほど仕事を優先し、10に近いほどプライベートを優先）をグラフにしたものです。
本項目では全体の31.1%が1~5を選択し、仕事をプライベートよりも度合いは違えども優先しているといった回答が見られました。

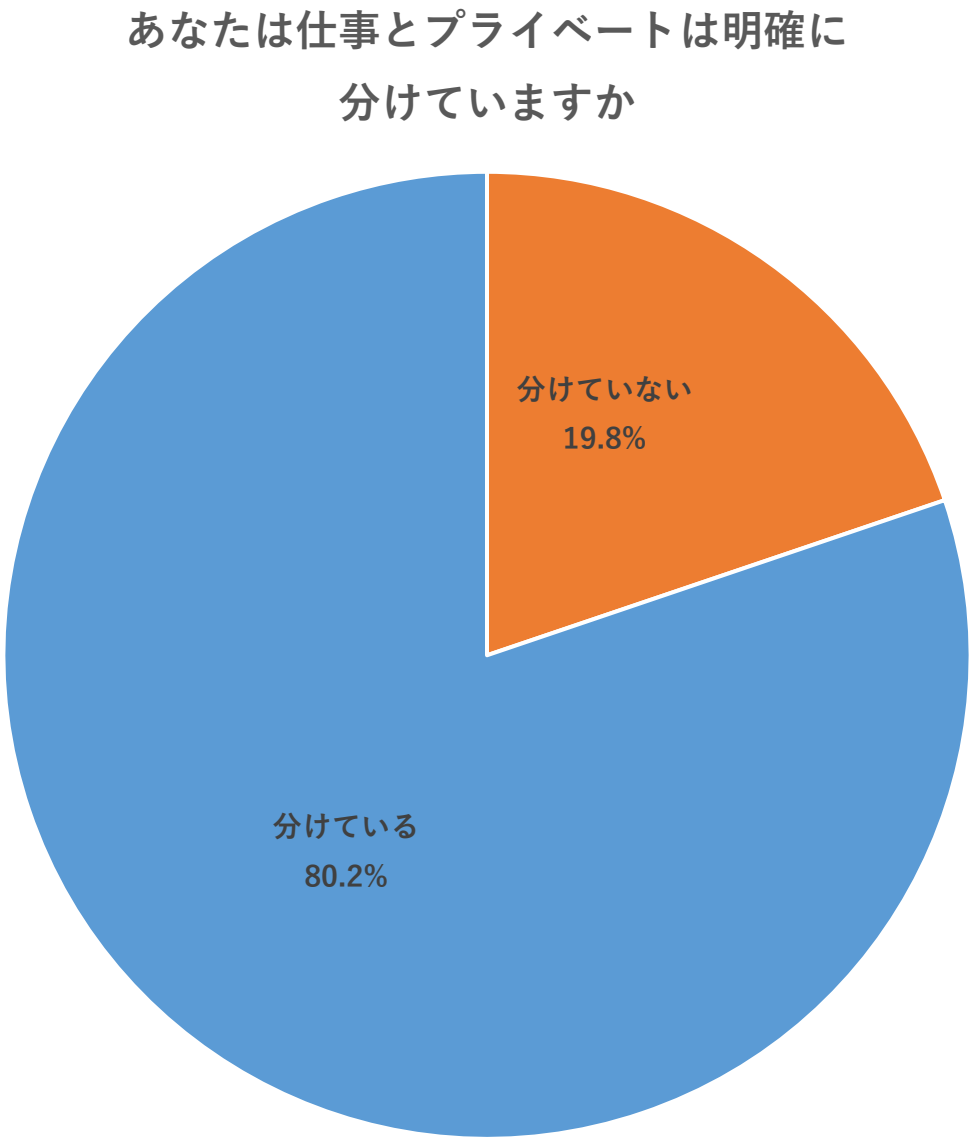
【30代までと40代からで見えた差】
図1を見るとこちらの項目についても30代までと40代以降で仕事を優先する傾向がある割合（1~5を選択した方）について少し差がみられるという結果になりました。具体的には1~5までを回答した方の内40代が35.6%、50代が34.8%、30代が27.6%、20代が26.4%という結果でした。先ほどのQ1と同じく30代までと40代以降で7%以上の差が生じており、40代以降の方が、仕事を比較的優先しているという結果が出ました。

【性年代で見たときの特徴】
性年代別で見ても主に女性で仕事を優先する傾向がある割合（1~5を選択した方）について大きな差が見受けられ、30代と40代の間で約10%の差が見受けられました。男性の30代と40代を比較すると差は5.6%ほどなので倍近い差が見受けられたことになります。やはりこちらもライフステージの変化による影響が大きいと考えられます。

【まとめ】
仕事をプライベートよりも優先する傾向については、30代と40代で大きく差が出ており、特に女性で大きな差が見受けられました。こちらもライフステージの変化による影響が大きく、生活を豊かにするために仕事に力を入れる傾向があることが推測されます。一方、特に20代では仕事よりもプライベートを優先する傾向があることが見受けられました。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q３　あなたは仕事とプライベートは明確に分けていますか

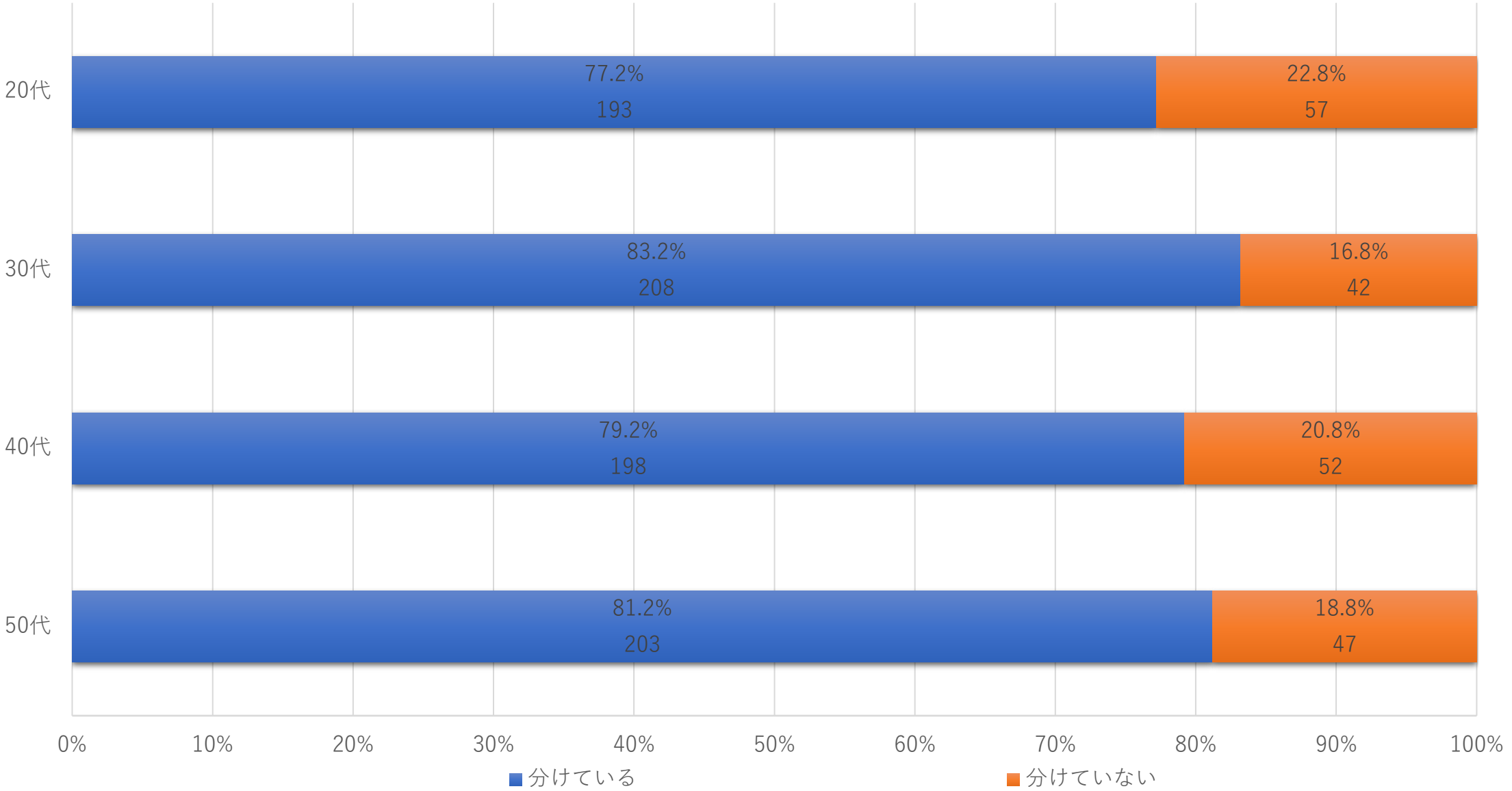


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q3 図1（年代別）

識学

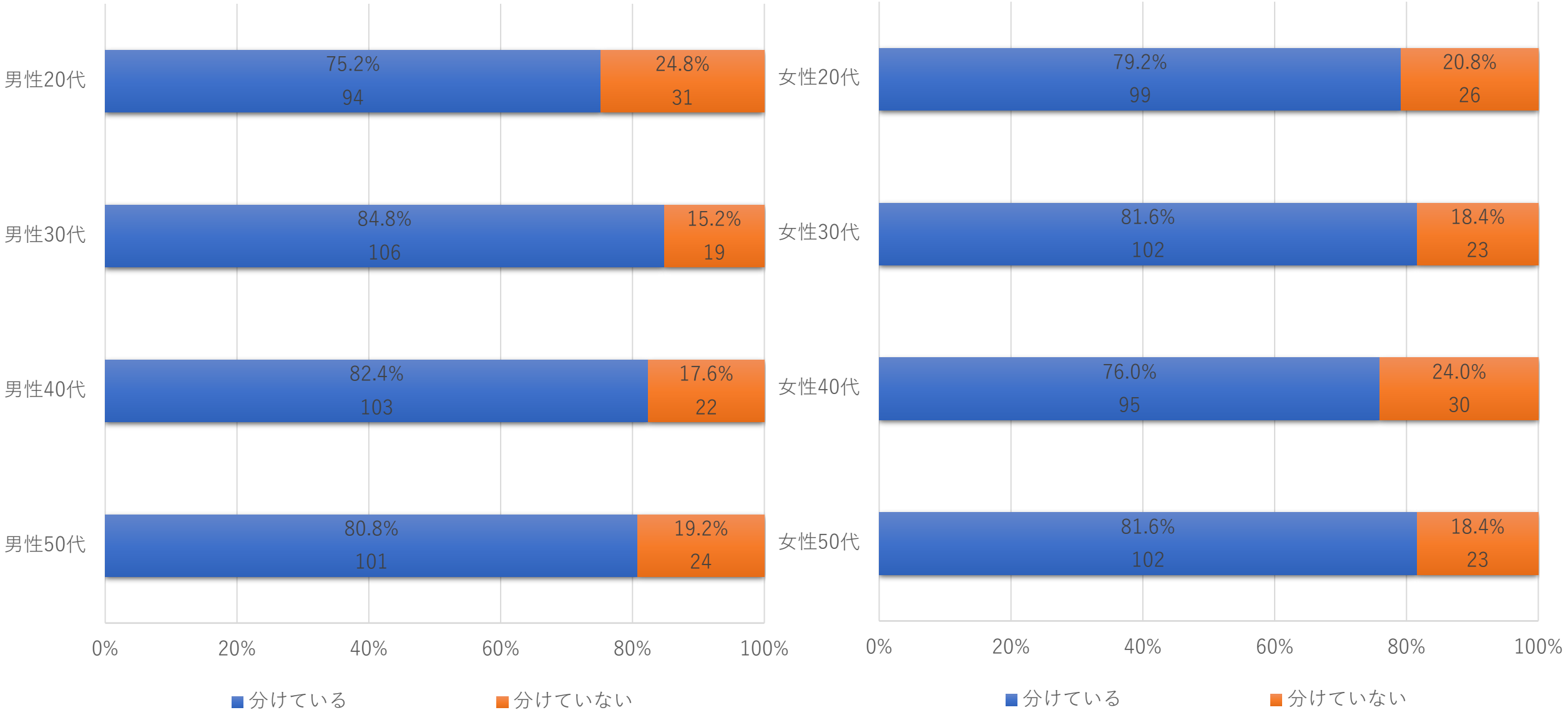


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q3 図2（性年代別）

識学



SHIKIGAKU CO., LTD.
Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目では仕事とプライベートを明確に分けているか否かについてアンケートを行いました。その中ですべての年代において約8割が分けていると回答をしました。図1、図2ではその分けていると回答した方を年代・性年代それぞれで分けてグラフ化しました。

【20代、30代で出た差】
図1を見ると、20代と30代で差が6%程出る結果となりました。これは20代から30代になるにつれて仕事とプライベートを分けるようになる方が多くなるといったことを示す結果となりました。
そして、男女ともに40代で仕事とプライベートを分けない割合が増える結果となりました。

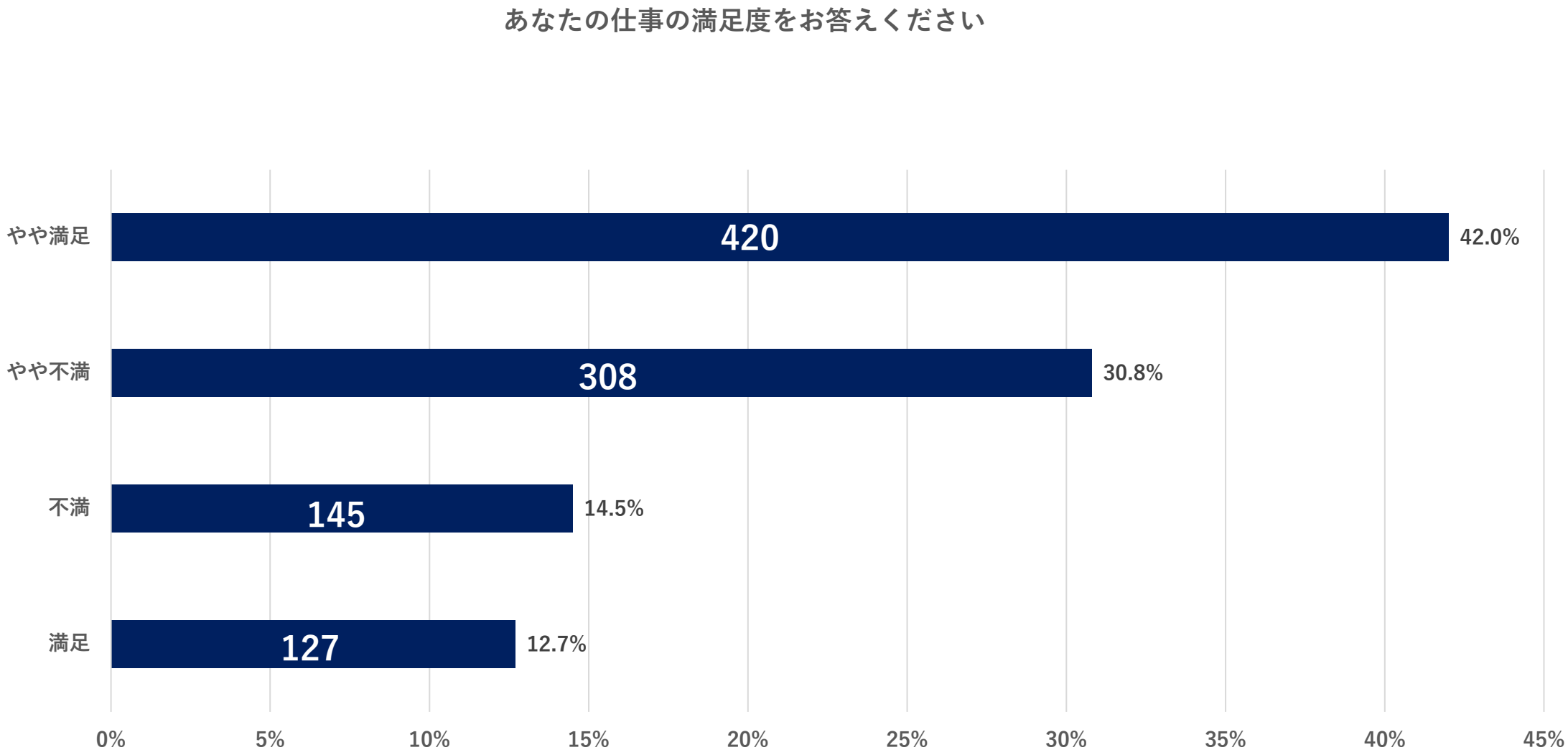
【Q1、Q2を踏まえた20代男性の特徴】
一方で性年代別でみるとQ1、Q2と同様に20代男性の仕事とプライベートに対する意識に特徴が見られました。Q1、Q2では、仕事よりプライベートを優先する傾向があると分かりましたが、Q3を見ると性年代別で最も仕事とプライベートを明確に分けているという回答割合が少ないことが分かります。この結果から20代男性はプライベート優先思考はあるもののそれほど強くプライベート優先しているわけではなく、仕事とプライベートを明確に分けるわけではないと言えます。これは20代男性がこれからの生活においてプライベートも大事ではあるが、同じくらい仕事も重要であるといった意識が調査結果に表れたものであると考えられます。

【まとめ】
全体を通して20代と30代で差が出た結果となりました。20代男性が他の性年代と比較して仕事とプライベートを分けているといった回答が少ないという結果とQ1、Q2の結果を踏まえて考えると、20代男性は仕事とプライベートが同じくらい重要であるという意識が他の性年代と比較して強い傾向があると考えられます。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q4　あなたの仕事の満足度をお答えください

識学

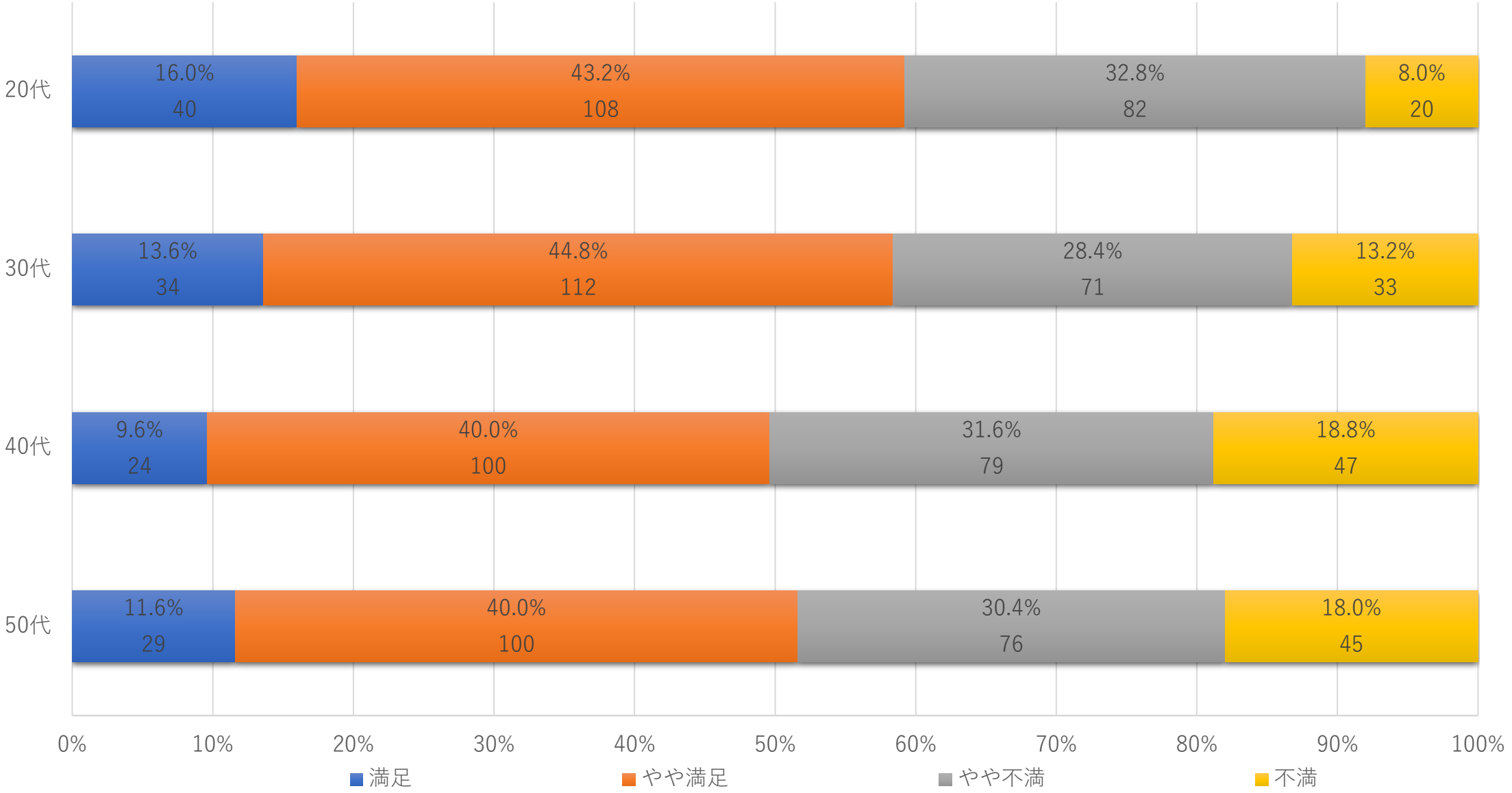


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q4　図1（年代別）

識学

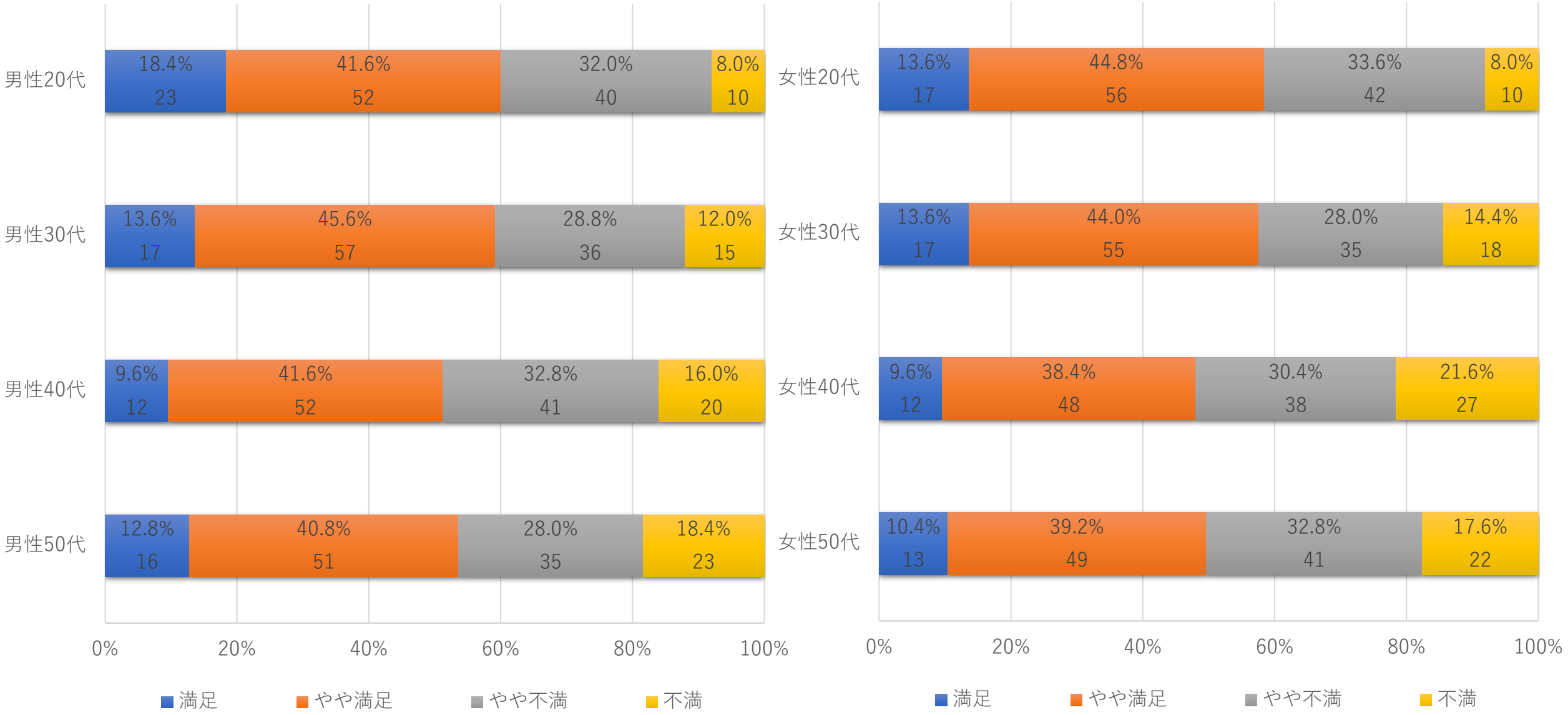


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q4　図2（性年代別）

識学



SHIKIGAKU CO., LTD.
Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目では「仕事の満足度」についてアンケートを行いました。
本調査では全体を通して54.7%が満足もしくはやや満足と回答をしました。
それらの回答を年代・性年代にまとめグラフにしました。

【年代別の満足・不満の差】
図1を見ると20代が最も仕事に満足している旨の回答（満足またはやや満足を選択）が多く、
59.2%を占めています。次いで30代で58.4%となっており、20代が最も満足度が高い結果となりました。一方で不満である旨の回答をした割合は40代がトップで50.4%、次いで50代で48.4%という結果になりました。
今回の結果から20代が最も仕事に対して満足感を持っているものの、年齢が上がるにつれて満足度は低下し40代で不満のピークを迎えるが50代でまた少し不満が軽減されるといった傾向があることが分かりました。

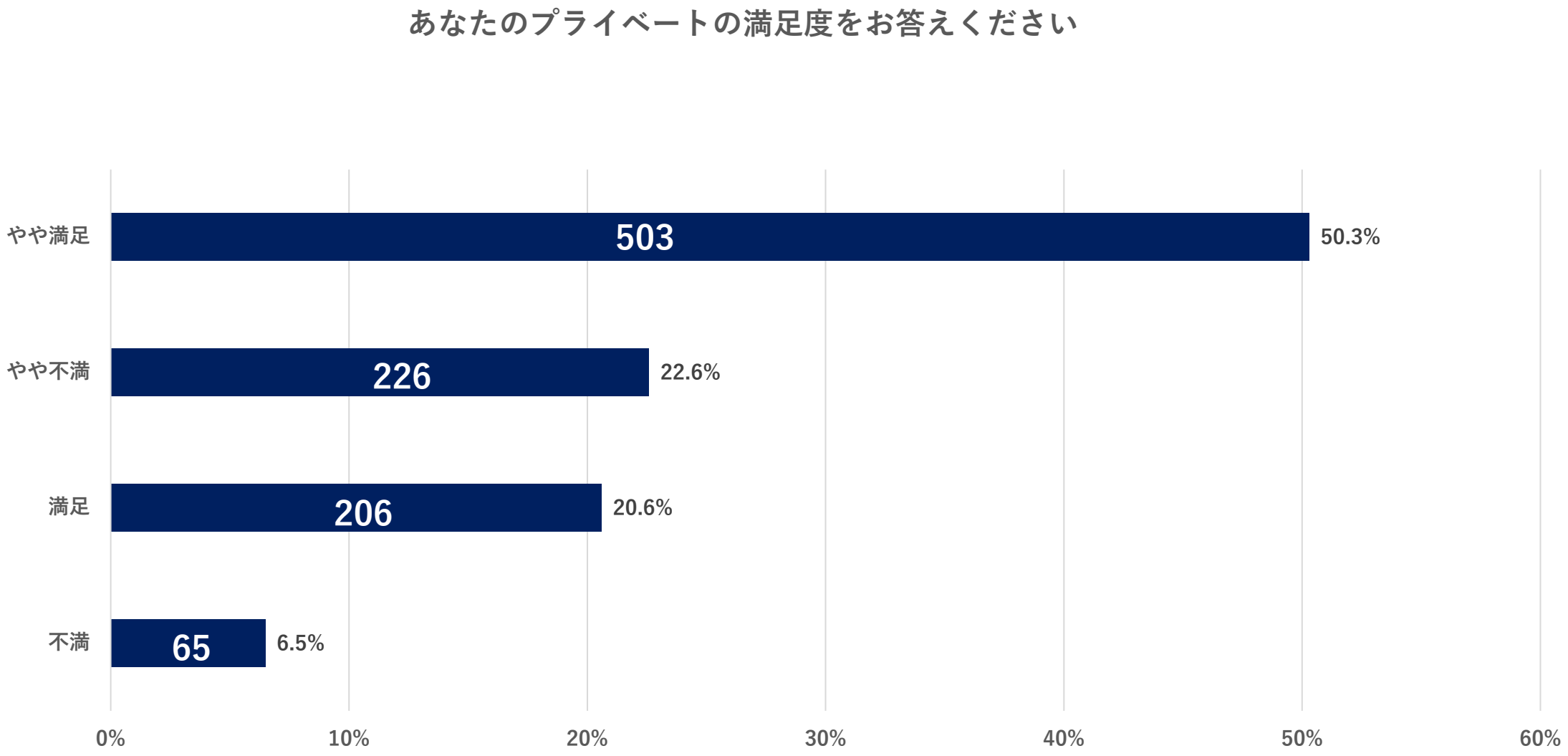
【20代・30代男性と40代・50代女性の差】
図2を基に性年代別に見ていくと、満足度において20代男性が60.0%で最も高い割合であり、次いで30代男性の59.2%という結果となりました。これは20代30代の比較的若い世代の男性は自身の仕事に対して満足している傾向が強い事を表しています。一方で図2の不満の割合を見ると40代女性が52.0%で最も多く、続いて50代女性の50.4%という結果となりました。
この結果から、20代30代の男性は仕事の満足度が高い方が多い一方で、40代50代の女性は不満である割合が高く、年齢と性別によって差がある結果となりました。

【まとめ】
満足度については性別や年代別で差がある結果となりました。これには様々な要因があると考えられますが、一つの要因として考えられるのが収入です。男性の平均年収は481万円・女性の平均年収は366万円となっています。（ 参照：https://doda.jp/guide/heikin/age/ ）
もちろん一概に言えることではありませんが、この収入差が社会人経験を経ていく中で仕事の不満になっていく可能性も大いにあります。そのような不満を生まないためにも「平等な評価制度や給与体系」が今の企業には求められるのではないでしょうか。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q5　あなたのプライベートの満足度をお答えください

識学

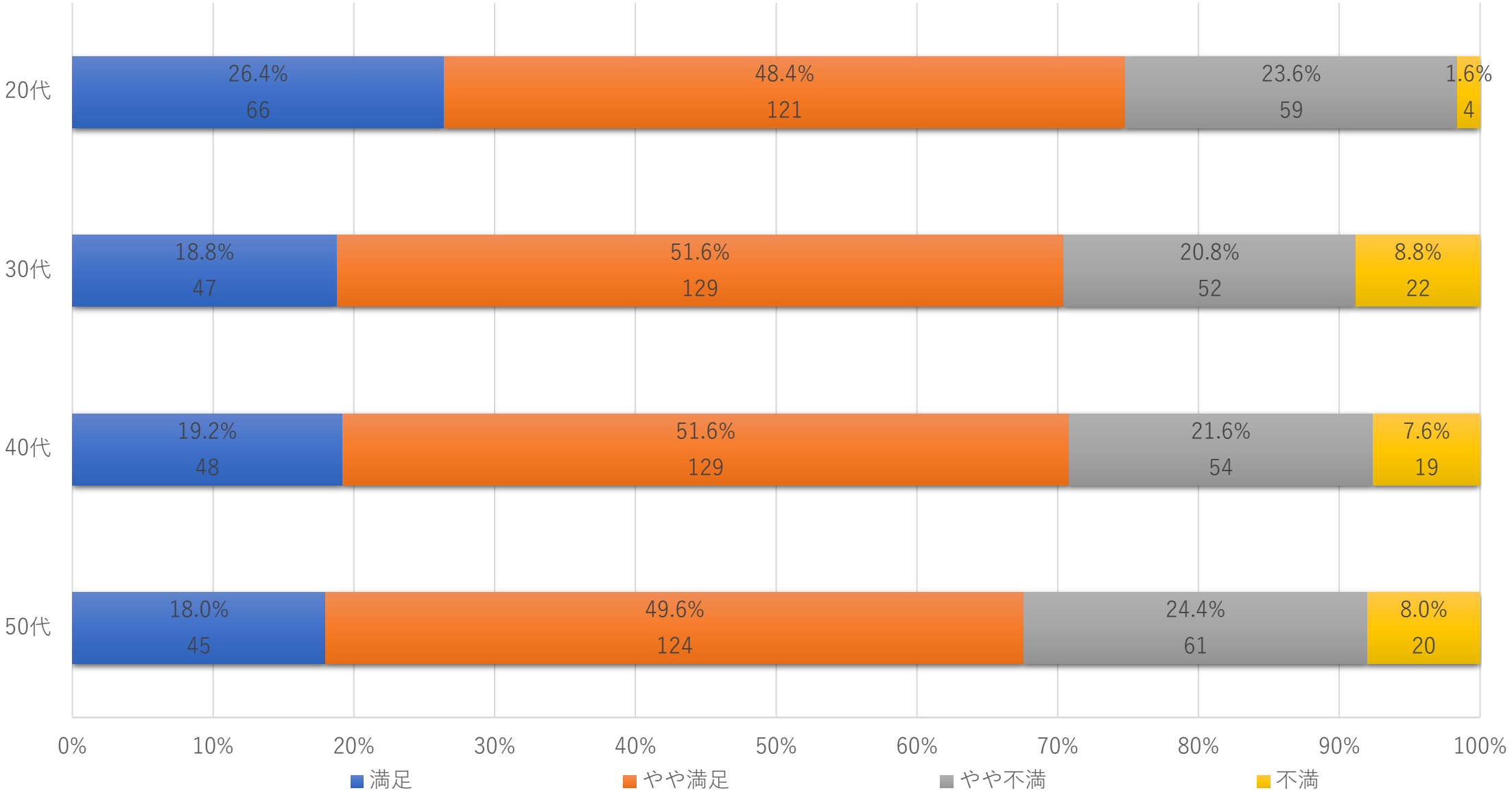


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q５　図1（年代別）

識学

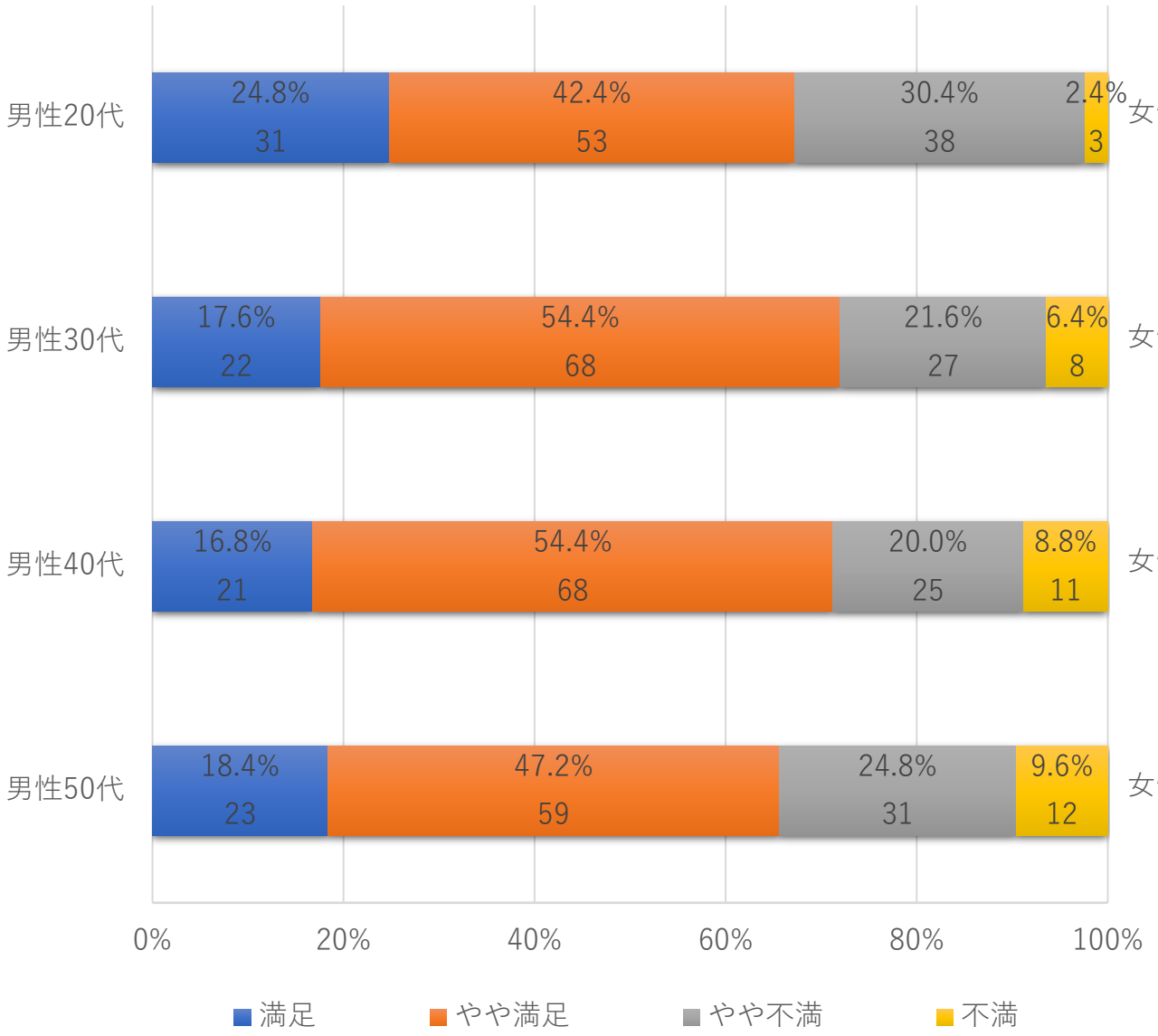


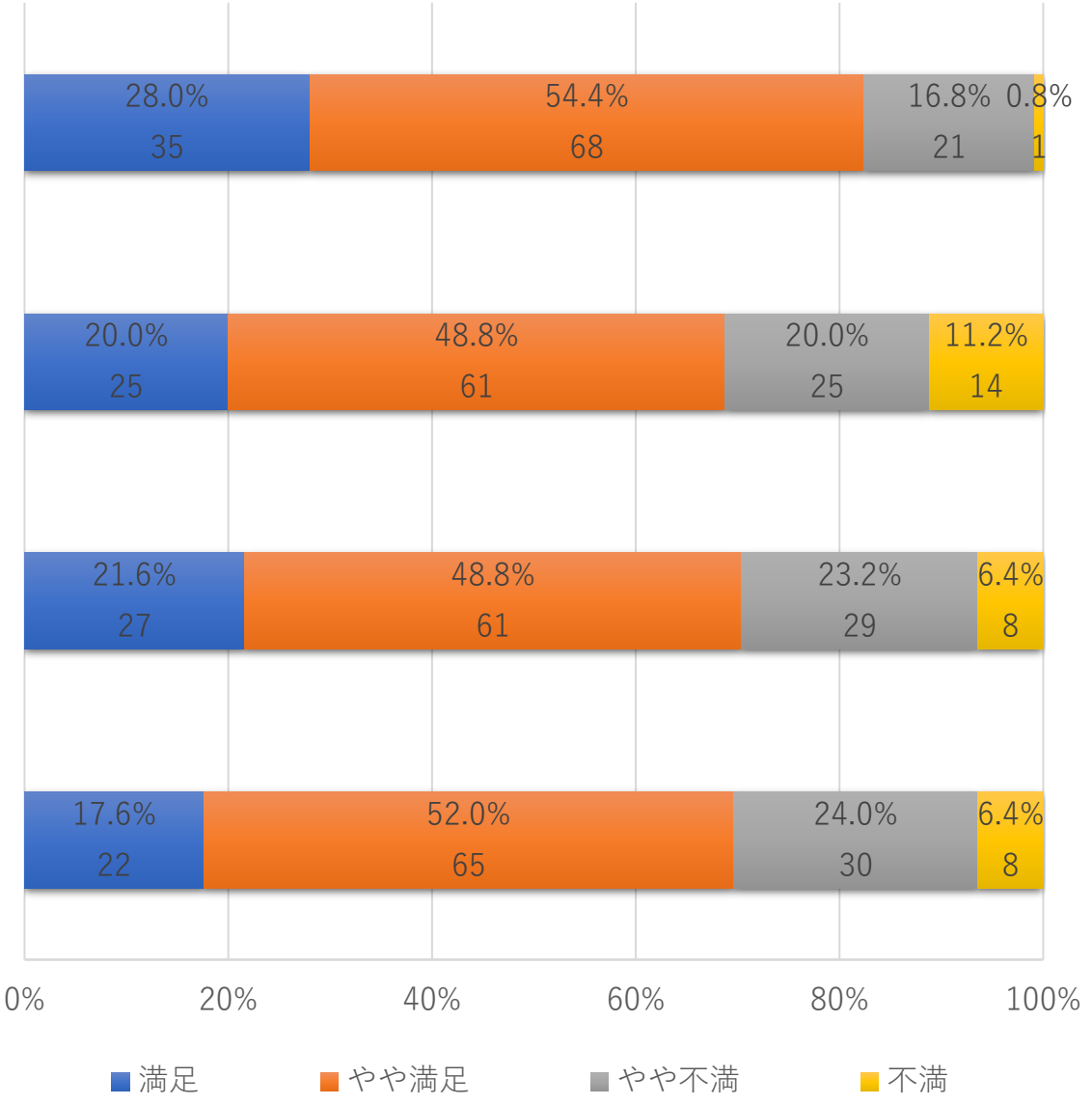
SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q5　図2（性年代別）

識学





SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目では「プライベートの満足度」についてアンケートを行いました。
本調査では全体を通して70.9%が満足もしくはやや満足と回答をしました。
それらの回答を年代・性年代にまとめグラフにしました。

【20代と50代で見受けられた差】
図1のグラフを見ると20代は「満足」または「やや満足」と回答した割合が多く、74.8%を占める結果となり、次いで40代が70.8%で続きました。
一方で、「不満」または「やや不満」と回答した方が最も多かったのは32.4%の50代となっており、次いで30代が29.6%という結果になりました。
この結果から20代はプライベートに満足をしている割合が高く、50代は比較的に満足をしている割合が低い傾向があるということが明らかになりました。

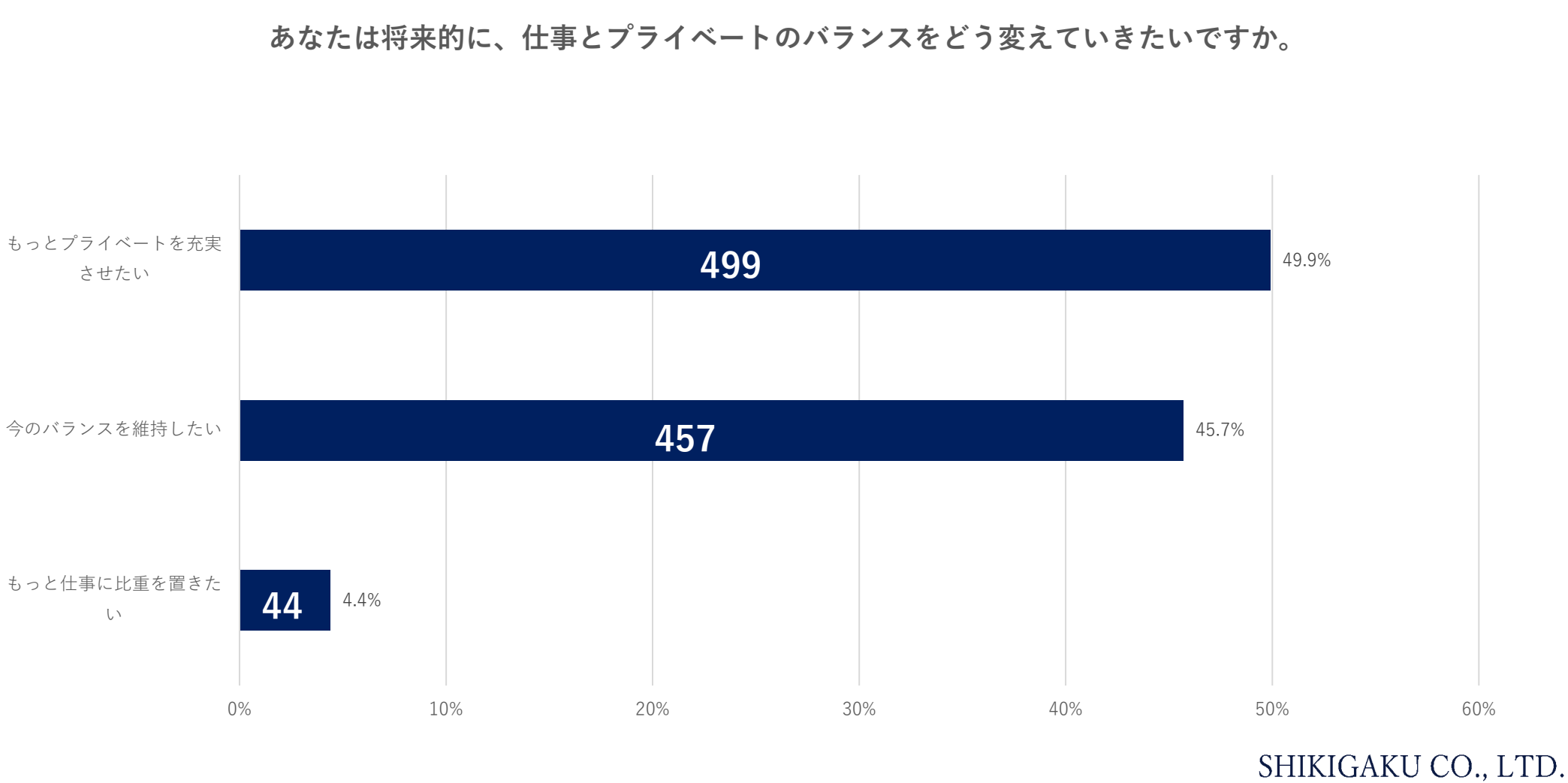
【同年代でも男女差】
20代の満足度が高い（「満足」または「やや満足」と回答した割合が多い）といったことを先述しましたが、その内訳を図2で見てみると20代女性が最も満足度が高く、82.4%を占める結果となった一方で、
20代男性は67.2%と男女間で差がある結果となりました。
この結果の大きな要因としては、Q2のプライベートの優先度に差があることが考えられます。Q2でプライベートを優先（6~10）をした20代男性は同性年代で66.4%だったのに対して、 20代女性は同性年代で80.8%という結果が出ました。
このプライベートに対する優先度合がプライベートの満足度を押し上げたと考えられます。

【まとめ】
年代別もそうですが、同年代でも回答に差が出る結果となりました。
特に20代女性は仕事とプライベート総じて満足度が高い傾向にありますが、20代男性は仕事の満足度は高いもののプライベートの満足度が比較的低い傾向が見受けられました。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q6 あなたは将来的に、仕事とプライベートのバランスをどう変えていきたいですか。

識学

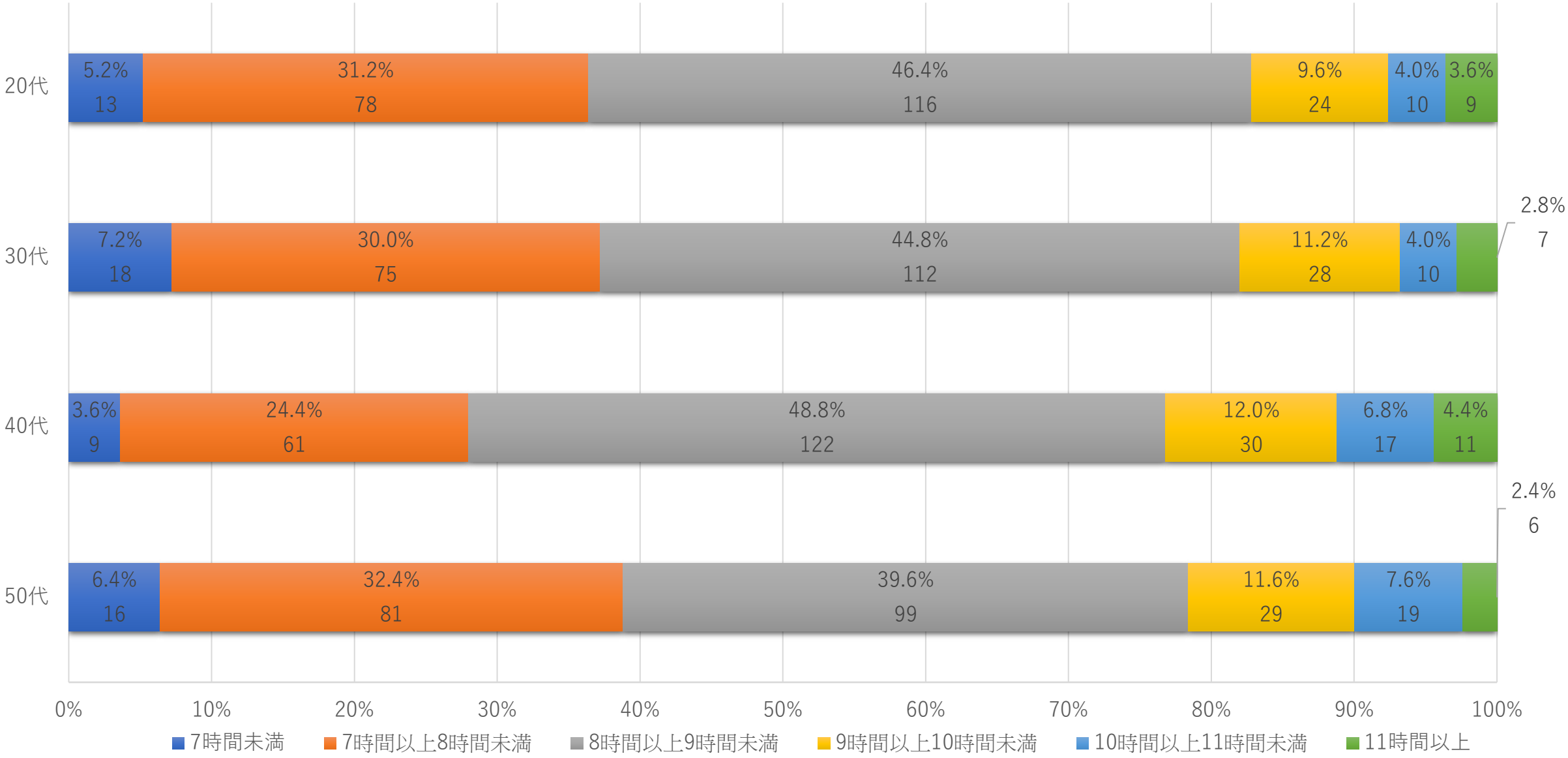


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q７あなたの普段の1日あたりの労働平均時間（残業等含む）を教えてください。

識学



SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q6Q7総評

識学

【グラフ概要】

Q6では仕事とプライベートのバランスについてのアンケートを行いました。
約半数の方がプライベートをもっと充実させたいといった一方で、今のバランスを維持したいといった方も多く見受けられました。

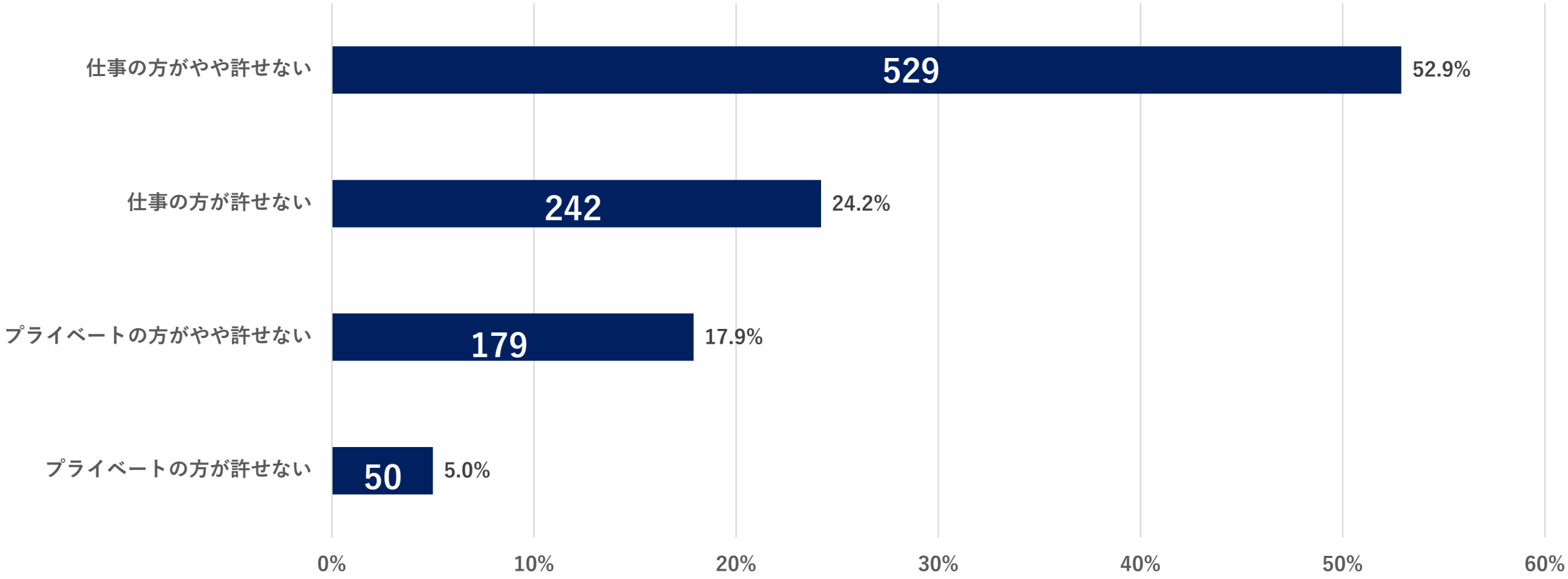
Q7では1日当たりの労働時間についてアンケートを行いました。全体の74.4%が7時間以上9時間以内という結果でしたが一方で全体の約9%は10時間以上という結果が出ました。特に年代別でみると40代で11.2%・50代で10.0%が10時間以上という結果が出ており、全体を通して割合が多い結果が出ました。

【まとめ】

仕事とプライベートのバランスについては約半数の方がもっとプライベートを充実させたいと考えていて、もっと仕事に比重を置きたいという方は4.4%であり、仕事をもっとやりたい方は少ないことが分かりました。
労働時間については40代、50代は10時間以上の割合が他の年代と比べて多く、仕事についての価値観の違いや責任の重さなど様々な要因があると思われます。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

自分もしくは相手がミスをした場合、仕事とプライベートで許せないと思うのはどちらですか。

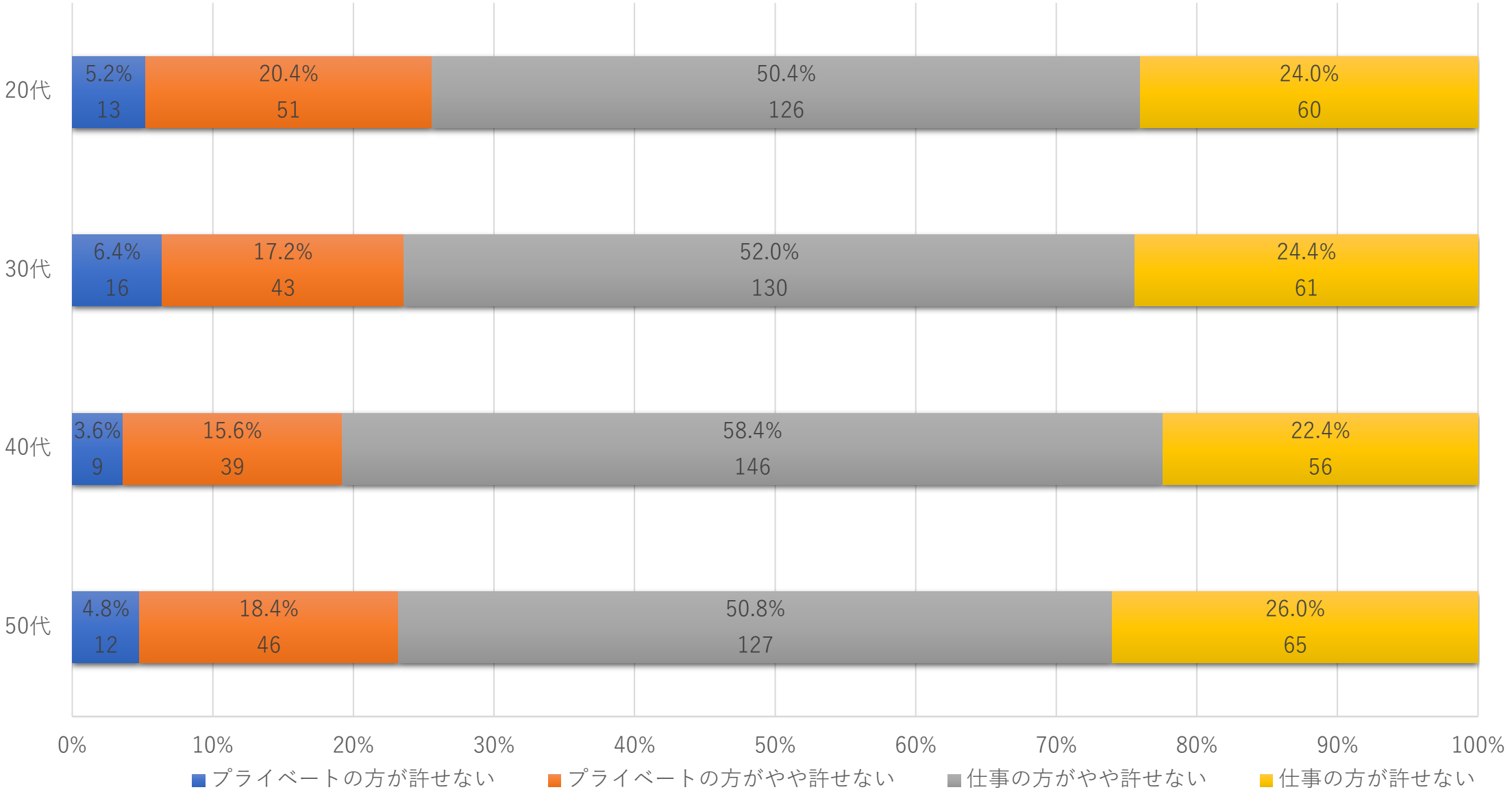


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q８　図1（年代別）

識学

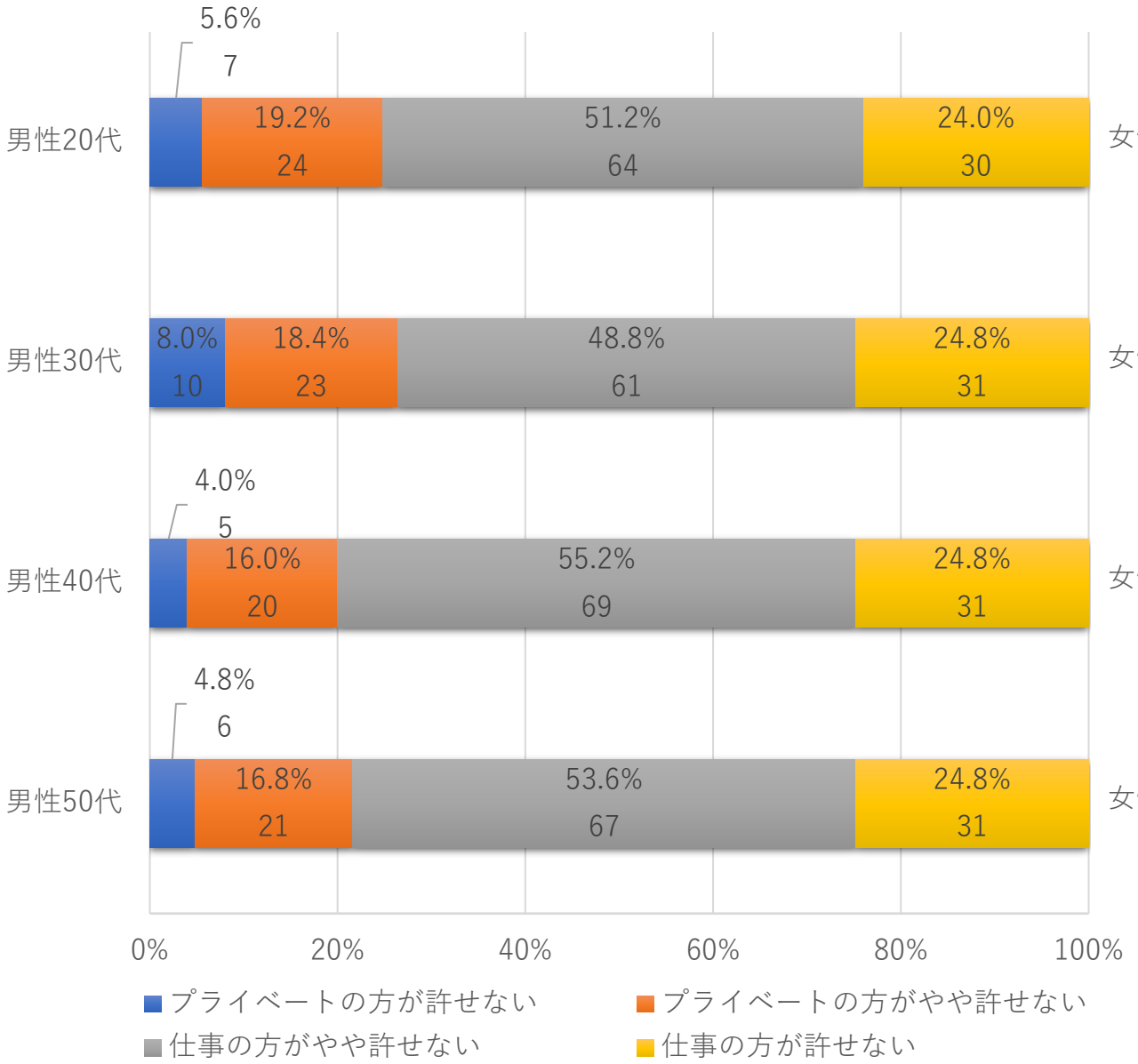


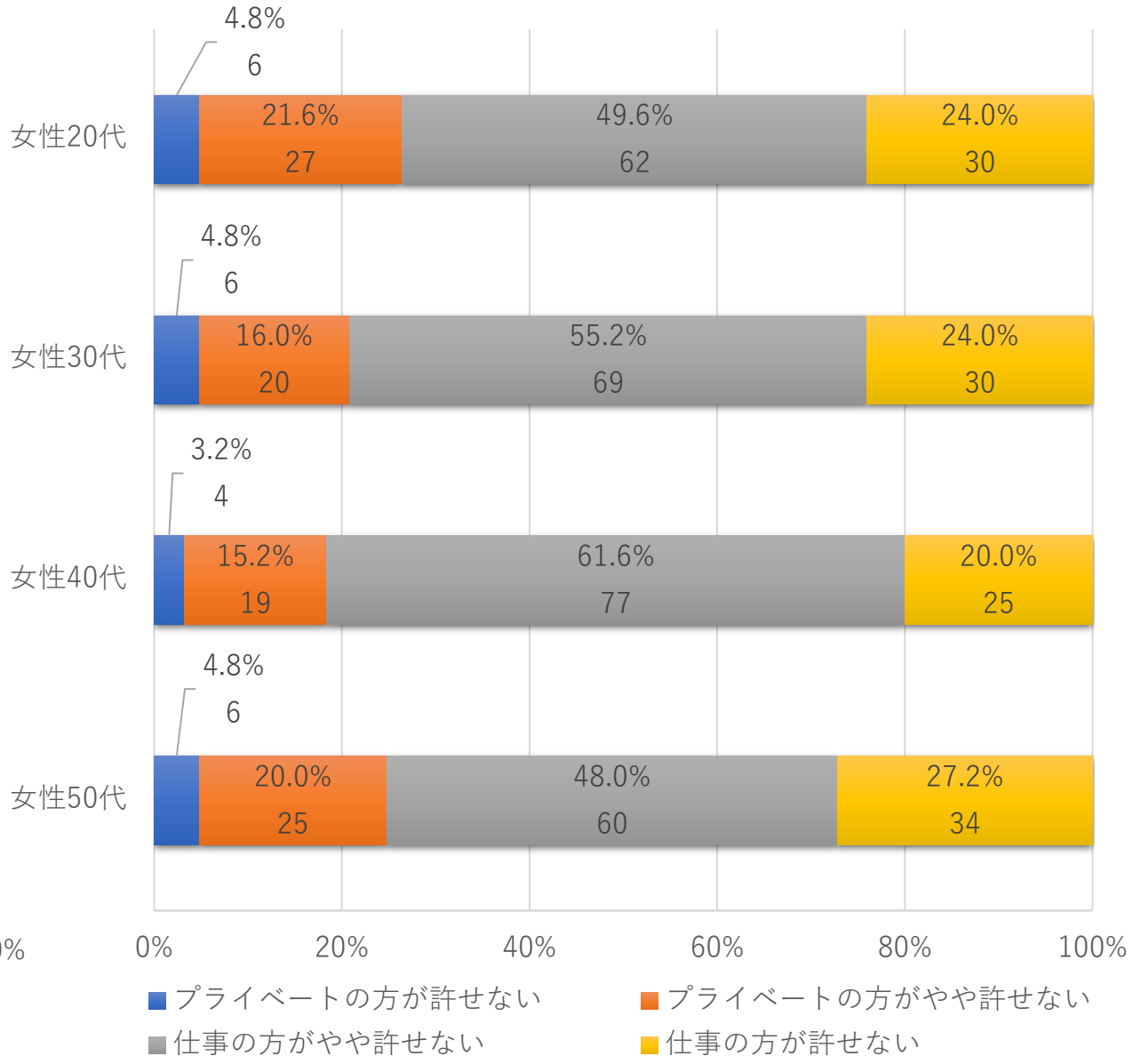
SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q8　図2（性年代別）

識学





SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目では「仕事とプライベートのミス」についてアンケートを行いました。全体を通して77.1%の方が「仕事のミスの方が許せない」（「仕事の方が許せない」「仕事の方がやや許せない」）と回答し、プライベートよりも仕事のミスにストレスを感じるという結果になりました。
本項目ではその内容を年代別・性年代別でグラフを作成しました。

【全年代大差なく仕事のミスの方が許せないと回答】
図1のグラフを見ると、年代ごとにそれほど大きな差は見受けられない結果となりました。

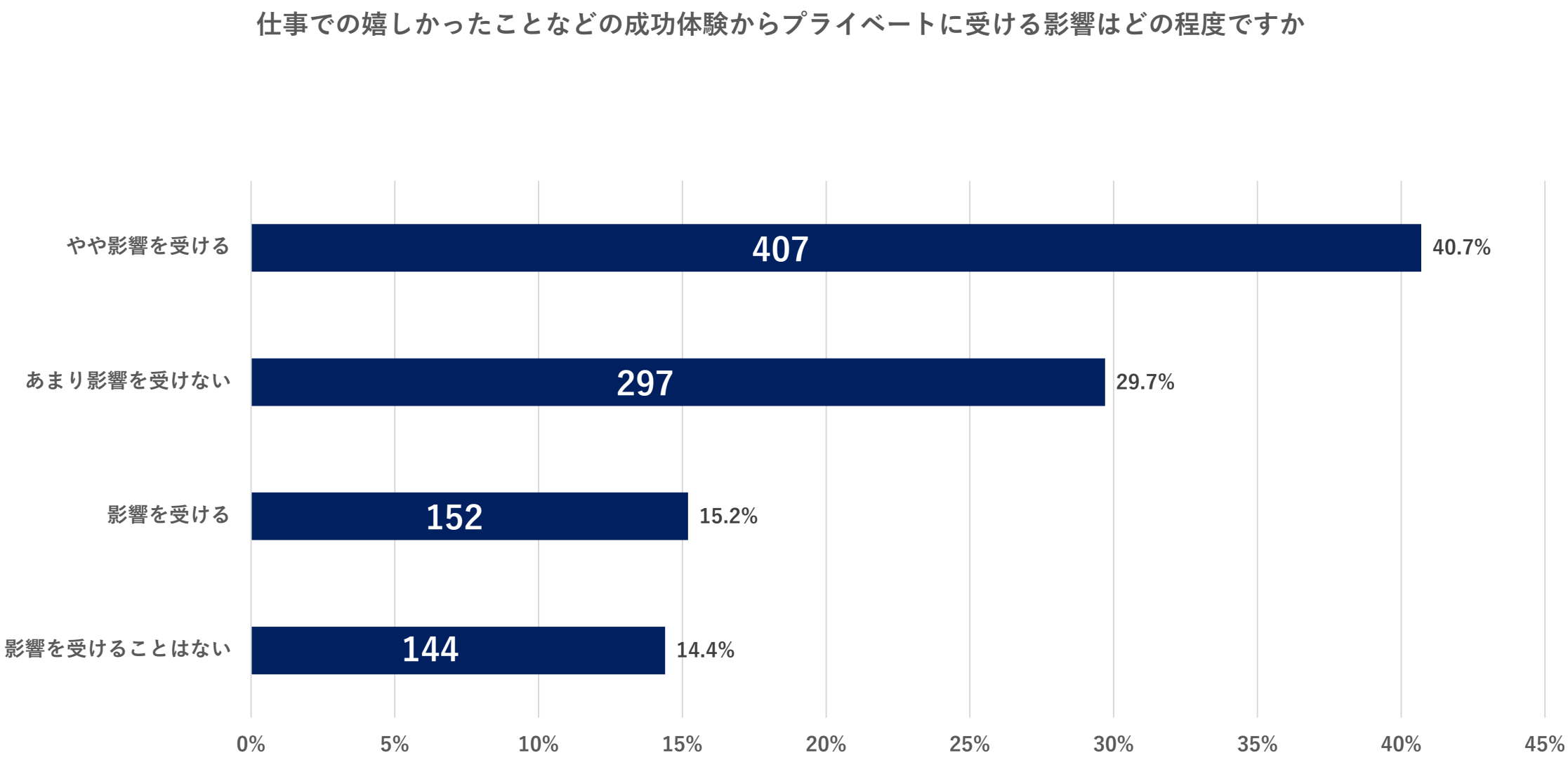
【40代男女の多くが仕事のミスの方が許せないと回答】
図2を見てみると、こちらも大きな差は見受けられませんでしたが40代が男女ともに80.0%、81.6%と「仕事のミスの方が許せない」と回答した方の割合（「仕事の方が許せない」「仕事の方がやや許せない」と回答した方の割合）が多いことが分かります。
50代も男女ともにやや多い傾向がありますが、20代30代はそれぞれ男女間で差がある結果となりました。

【まとめ】
40代・50代は比較的男女ともに仕事のミスの方が許せないという意見が多くの割合を占めたが、20代30代では男女間に差が見られました。
また、許せない理由についても20代は「会社に影響を与えてしまうかもしれないから」や「他人に迷惑をかけてしまうから」といった会社や他の社員への影響を挙げる方が多い一方で、40代は「給与をもらっている分、責任があるから」や「プロとしての意識があるから」等の声が挙がりました。
これらの結果から20代等の若い世代は周囲への影響を気にして許せない傾向があり、40代等の働き世代は自身の責任意識から許せない傾向があると考えられるという結果となりました。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q9 仕事での嬉しかったことなどの成功体験からプライベートに受ける影響はどの程度ですか

識学

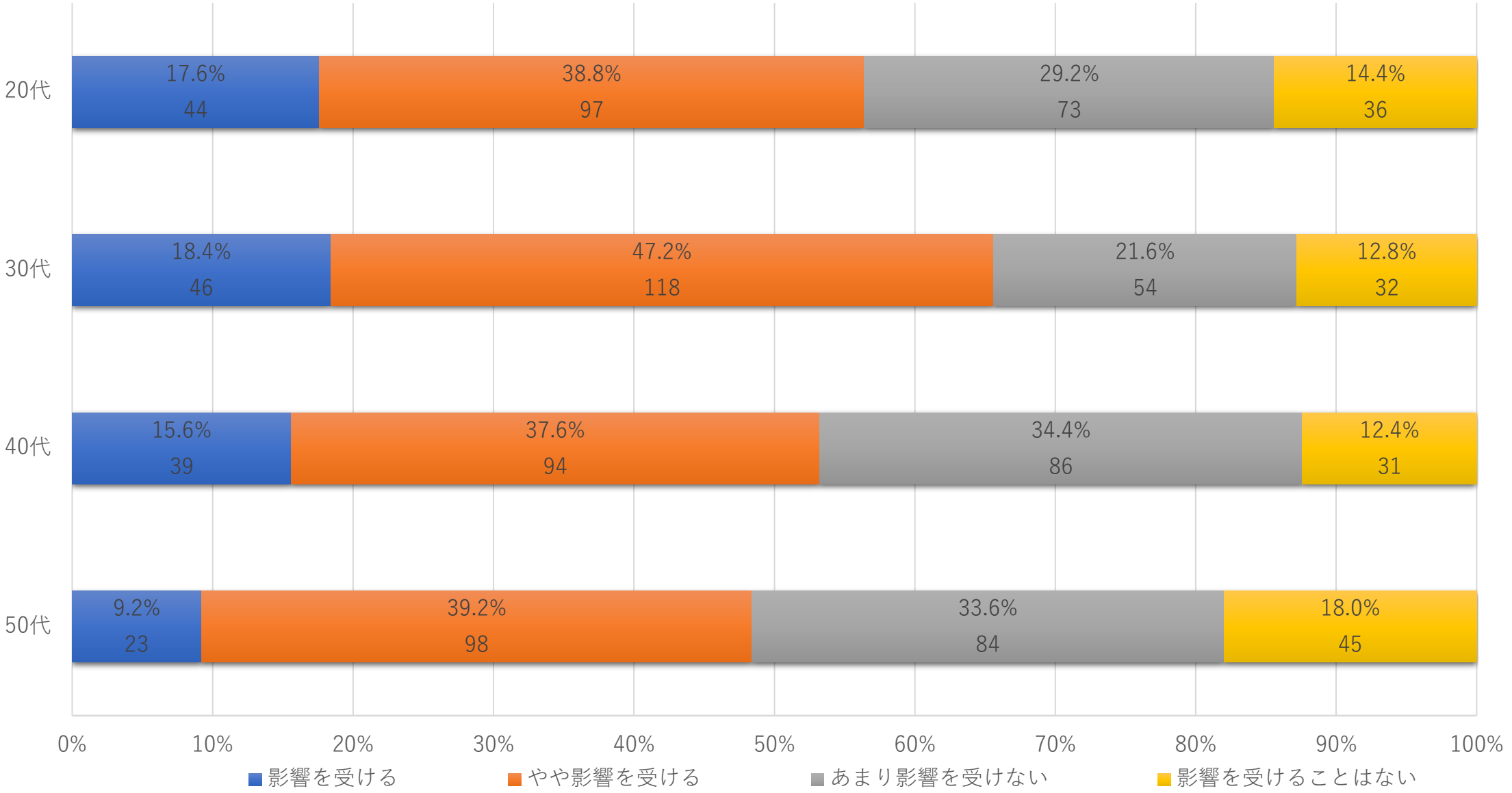


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q９　図1（年代別）

識学

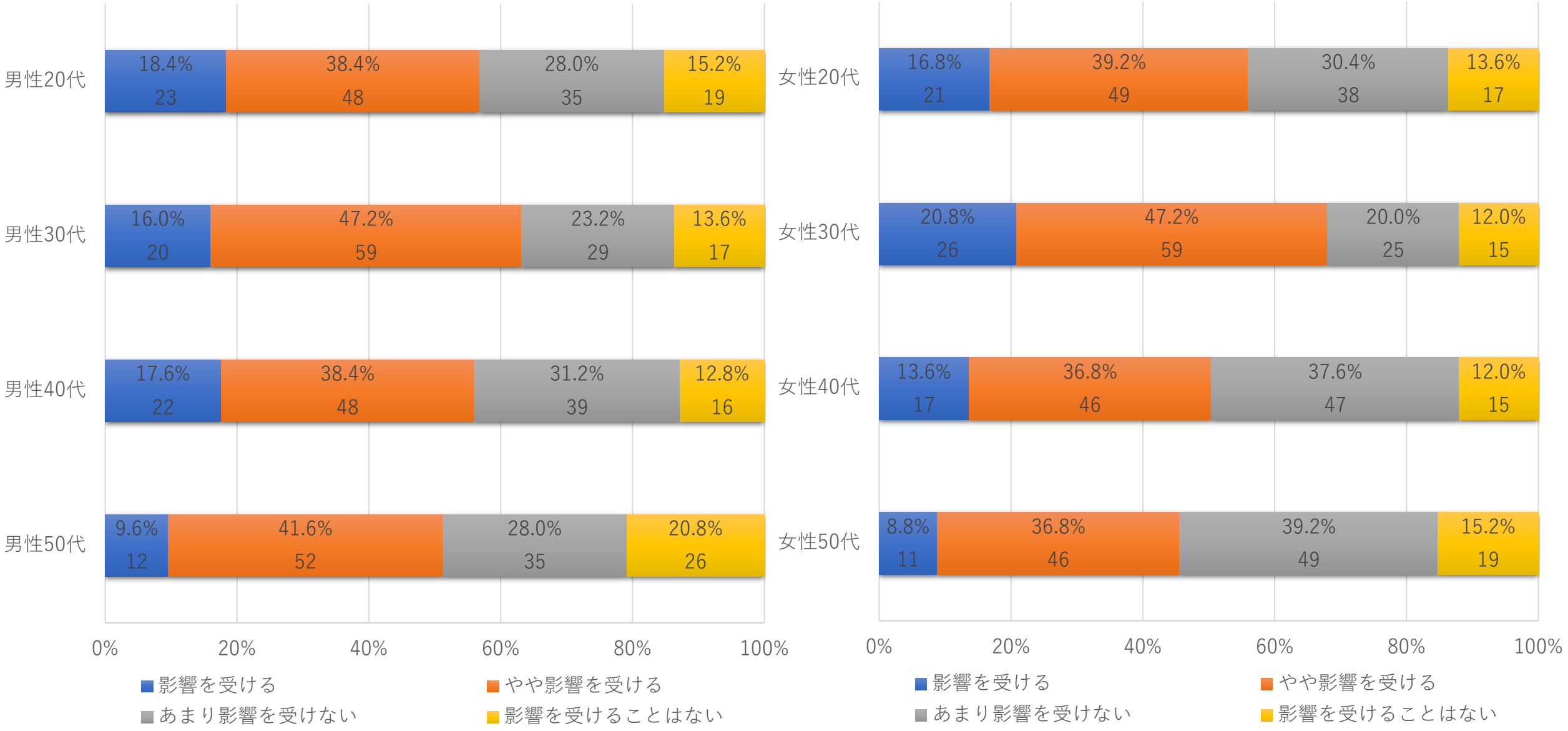


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q9　図2（性年代別）

識学



SHIKIGAKU CO., LTD.
Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目では仕事の成功体験がプライベートに与える影響についてアンケートを行いました。
全体では55.9%の方が影響を受ける旨の回答（「影響を受ける」または「やや影響を受ける」と回答）をしており、
その回答を年代・性年代別でグラフ化したものが図1・図2になります。

【30代を中心に仕事がプライベートに影響すると回答】
図1のグラフから、30代が最も影響を受けると回答（「影響を受ける」または「やや影響を受ける」と回答）しており、次いで20代、40代、50代という結果になりました。
やはり仕事での成功体験が増え始め、会社の戦力になっていく20代、30代を中心に仕事の成功体験がプライベートに影響を与えるという結果が出ました。

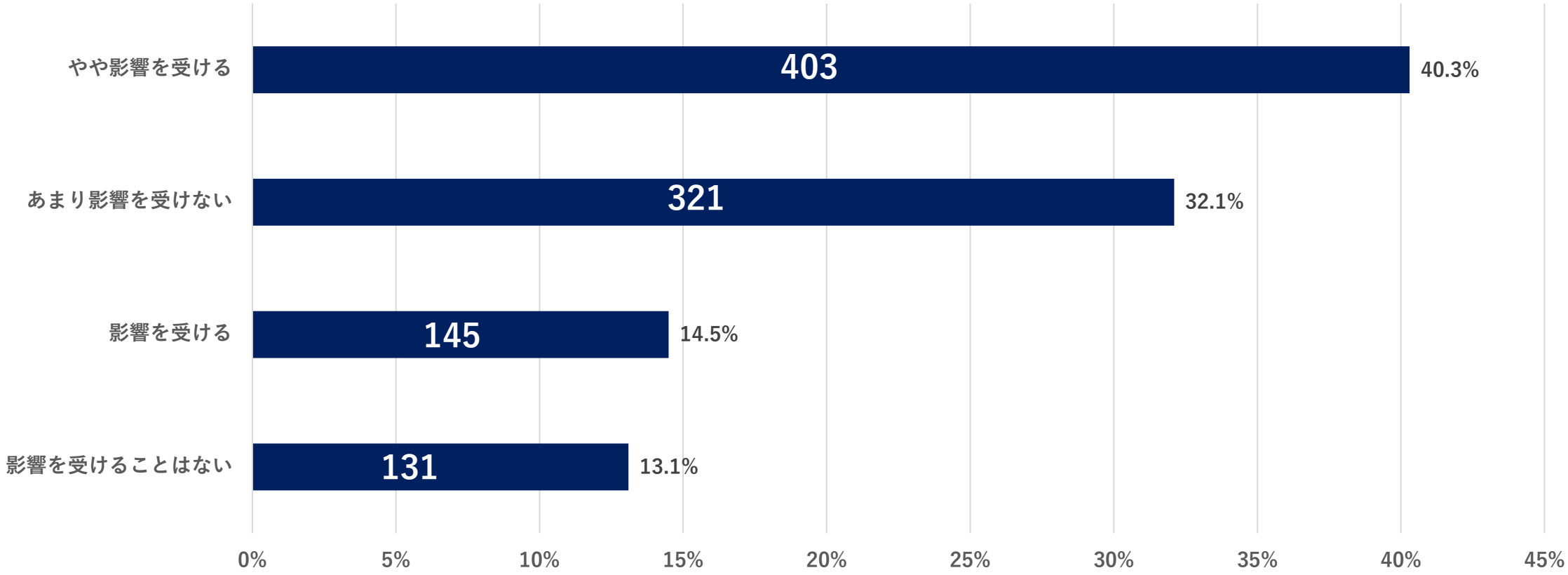
【性年代で見たときの傾向】
全体を通して30代以外は男性の方が女性より、仕事の成功体験がプライベートに影響を与える割合が多いという結果になりました。一方で30代については、女性が男性よりも仕事の成功体験がプライベートに影響を与えるという結果になりました。

【まとめ】
全体の傾向として比較的若い世代（20代、30代）を中心として仕事の成功がプライベートに影響を与える割合が多いという結果になりました、このことから、特に30代を中心として仕事で成功を収める（=成果を上げる）ことは連動してプライベートも充実するという方が多いということです。
また、アンケート全体でみると55.9%の方が影響を受ける旨の回答をしていることからも、プライベートを充実させるためには仕事を充実させることが有効な手段になると考えられます。
言い方を変えると、今回の結果から「仕事を頑張ること」が特に若い世代（20代、30代）についてはプライベートも充実する一つのきっかけになる可能性があるということです。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

識学

プライベートでの嬉しかったことなどの成功体験から仕事に受ける影響はどの程度ですか

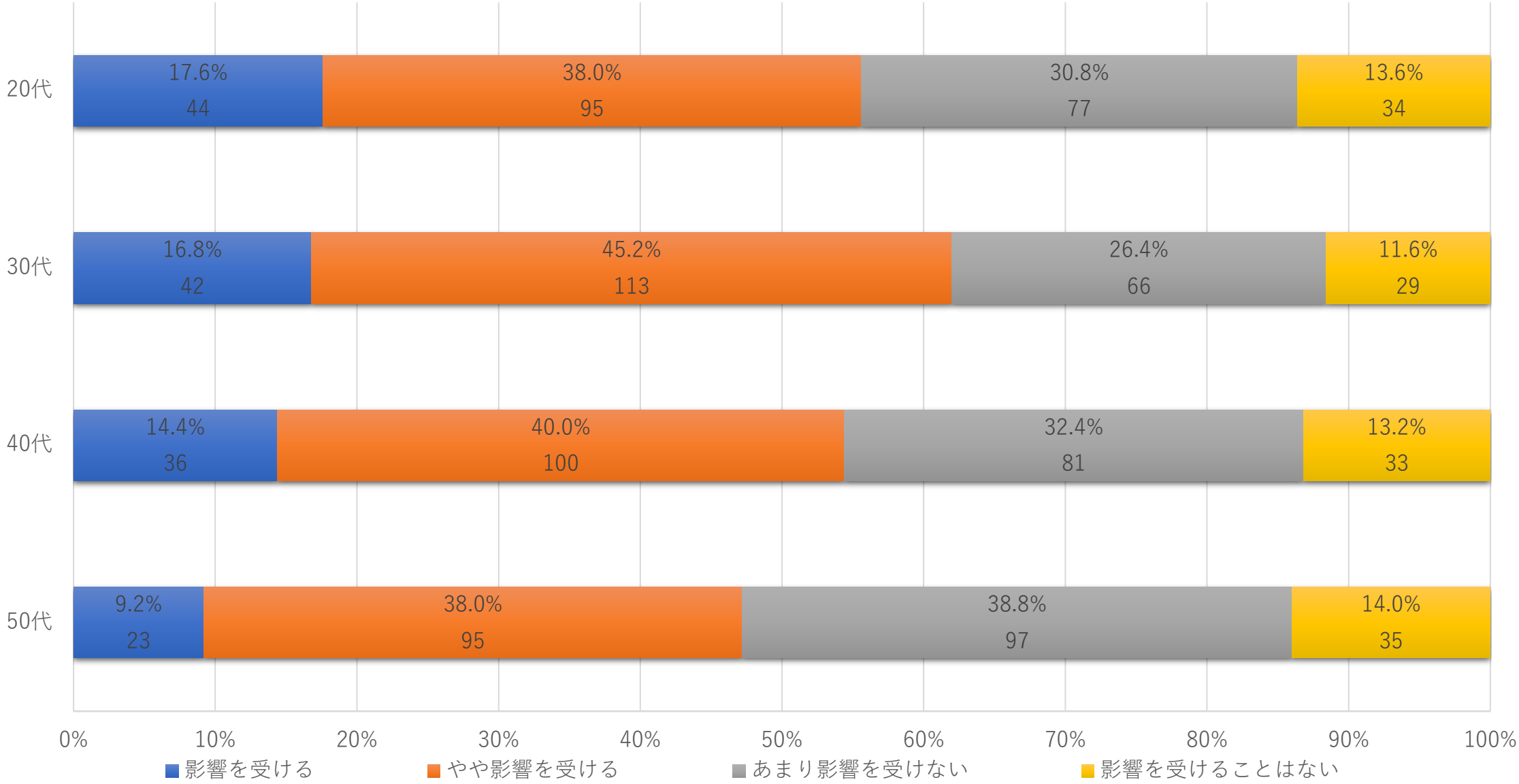


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q10　図1（年代別）

識学

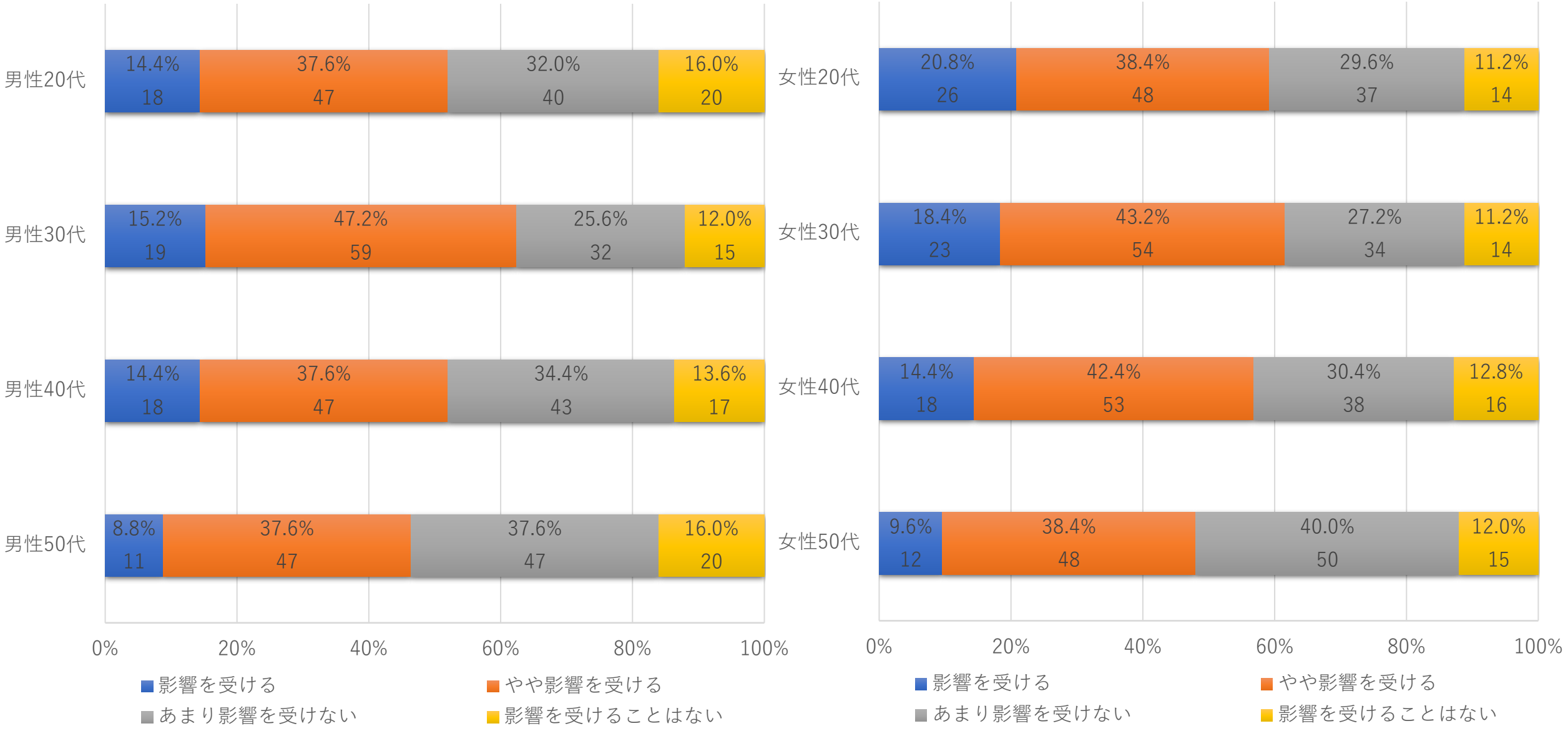


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q10　図2（性年代別）

識学



SHIKIGAKU CO., LTD.
Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目ではプライベートの成功体験が仕事に与える影響についてアンケートを行いました。
全体では54.8%の方が影響を受ける旨の回答（「影響を受ける」または「やや影響を受ける」と回答） をしており、
その回答を年代・性年代別でグラフ化したものが図1・図2になります。

【こちらも30代を中心として影響を受けると回答】
プライベートが仕事に与える影響についても30代が中心となり、影響を受ける旨の回答（「影響を受ける」または「やや影響を受ける」と回答）が見られました。
また、本項目も30代→20代→40代→50代といった回答割合になっており「仕事の成功→プライベート」の影響と「プライベートの成功→仕事」の影響については影響を受けやすい年齢層が同じであるという結果になりました。

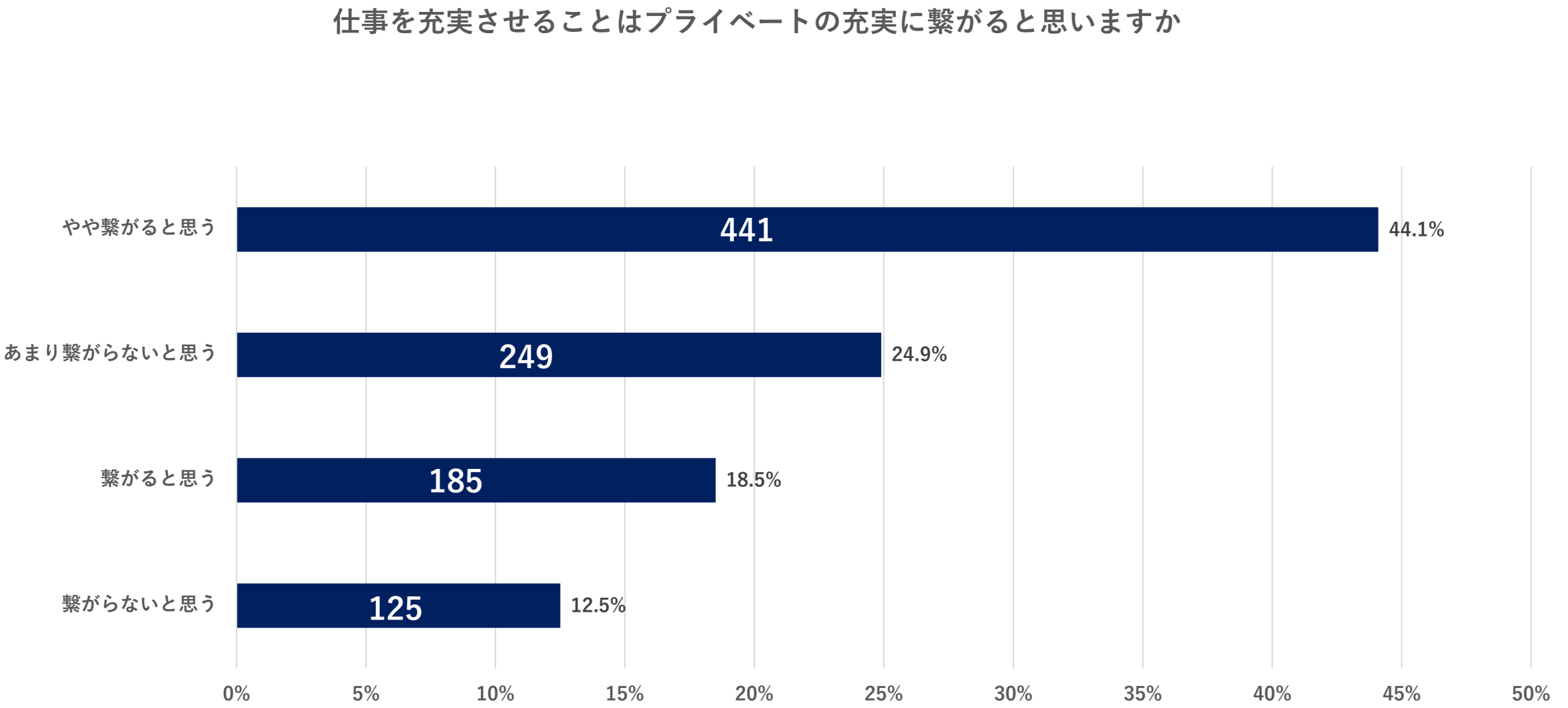
【性年代で見たときの傾向】
性年代別でみると最も影響を受けると回答（「影響を受ける」または「やや影響を受ける」と回答）したのは30代男性であるものの、その他の年齢層では男性よりも女性の方が影響を受けると回答した割合が多いことから「男性よりも女性の方が比較的プライベートの成功体験が仕事に影響を与えやすい」と言えます。

【まとめ】
Q9では仕事の成功体験がプライベートに与える影響について、30代で逆転現象はあったものの、男性の方が女性よりも影響を受けやすいという結果でしたが、Q10のプライベートの成功体験が仕事に与える影響についてもQ9と同様に30代で逆転現象は起こり全体的には女性の方が男性よりも影響を受けやすいという結果が出ました。この結果から、若い層を中心に仕事の充実とプライベートの充実は互いに相互関係にあると言えると考えられます。つまり、20代、30代を中心として「仕事の成功はプライベートに影響を与え、プライベートの成功は仕事に影響を与える」といった互いに影響を与え合っていると感じる方の割合が多いと言えるということです。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q11 仕事を充実させることはプライベートの充実に繋がると思いますか

識学

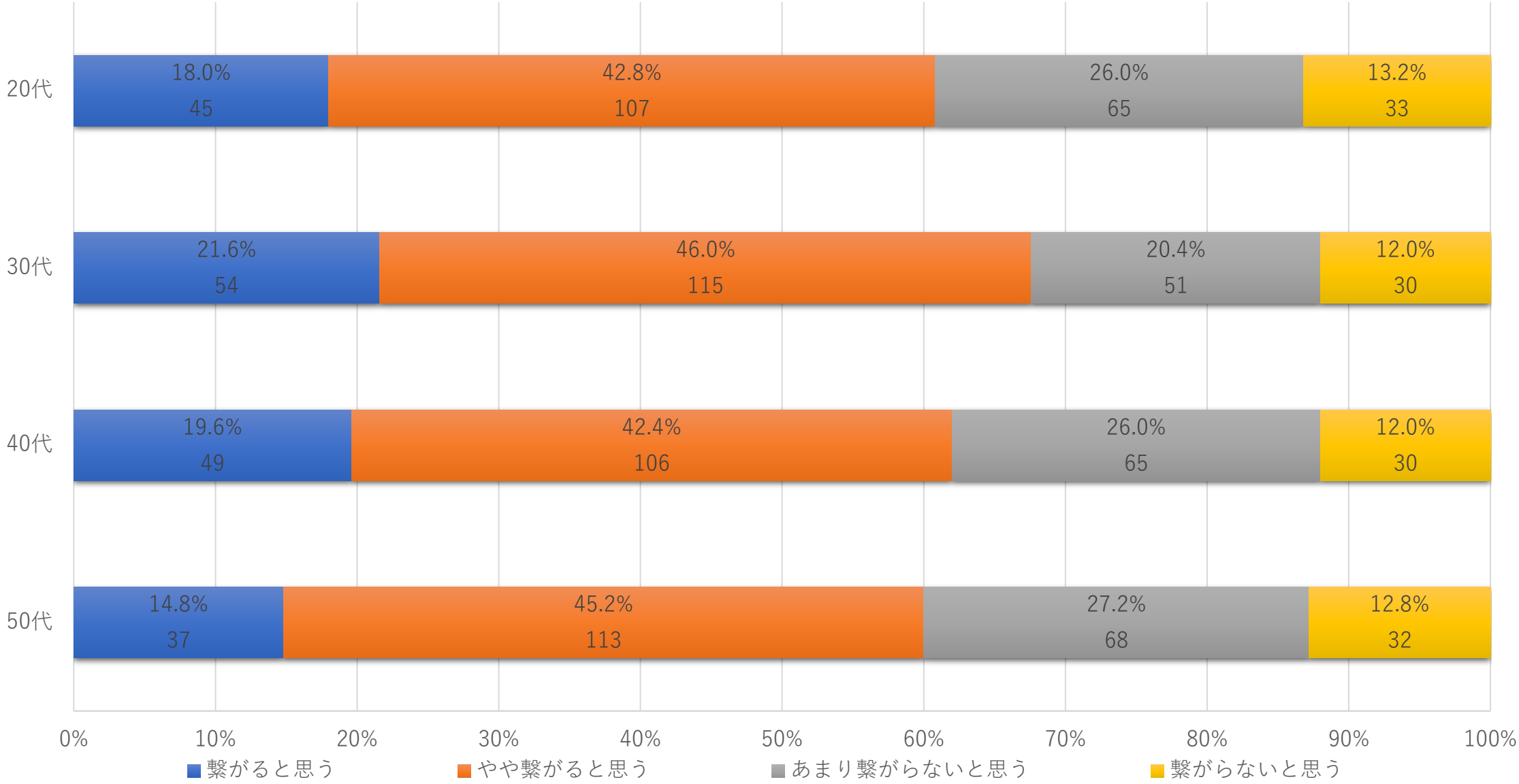


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q11　図1（年代別）

識学

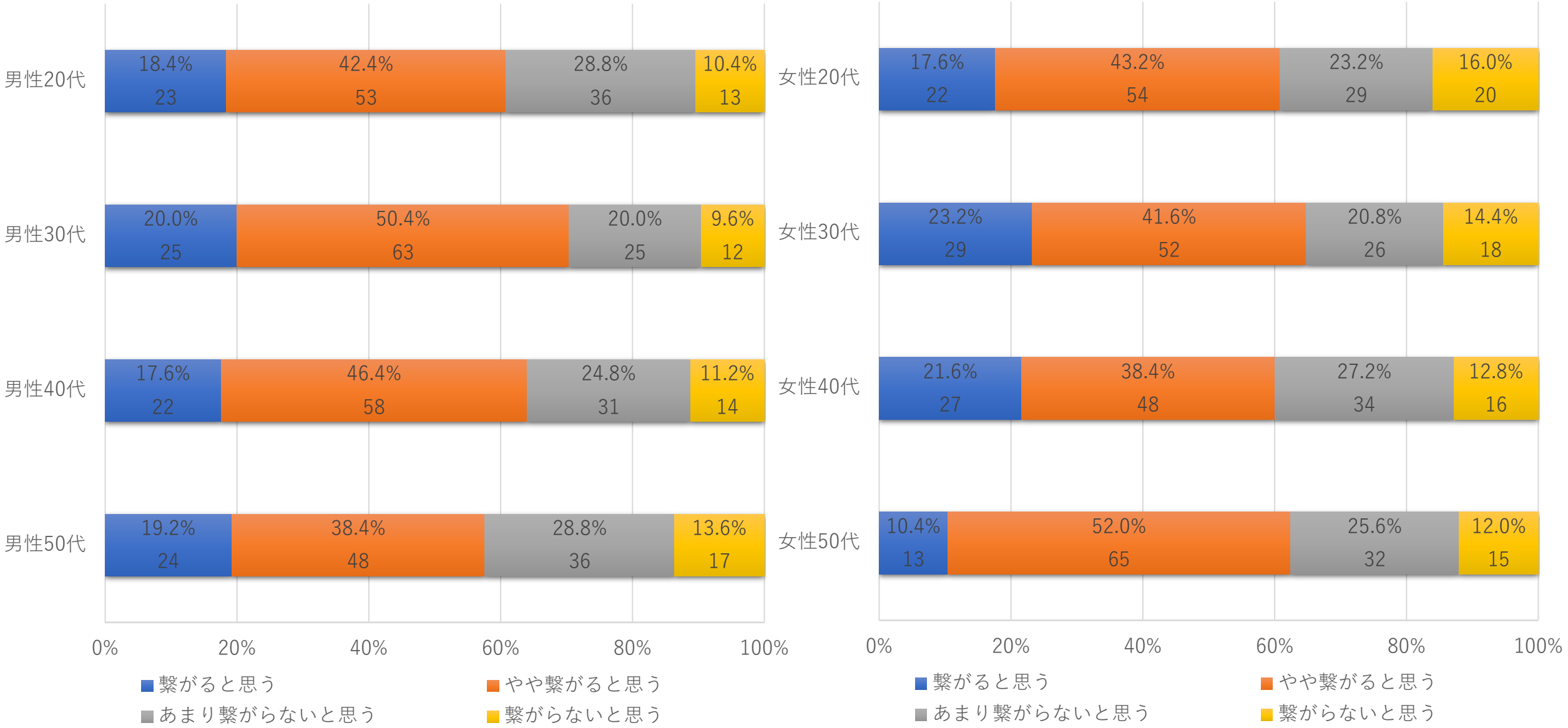


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q11　図2（性年代別）

識学



SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目では仕事の充実がプライベートの充実に繋がるかについて、アンケートを行いました。
こちらではアンケート回答者全体で、62.6%の方が繋がる旨の回答（「繋がると思う」または「やや繋がると思う」と回答）をしました。
そしてこの回答を年代・性年代別でグラフ化したものが図1・図2になります。

【30代40代を中心に仕事の充実プライベートの充実に繋がると回答】
年代別でみると、仕事の充実がプライベートの充実に繋がる（「繋がると思う」または「やや繋がると思う」と回答）ると最も多く回答したのは30代であり、次いで40代という結果になりました。この結果は出世や昇格等が盛んな30代、40代が中心となって仕事の充実を実感しそれがプライベートの充実にもつながっていると考えられます。

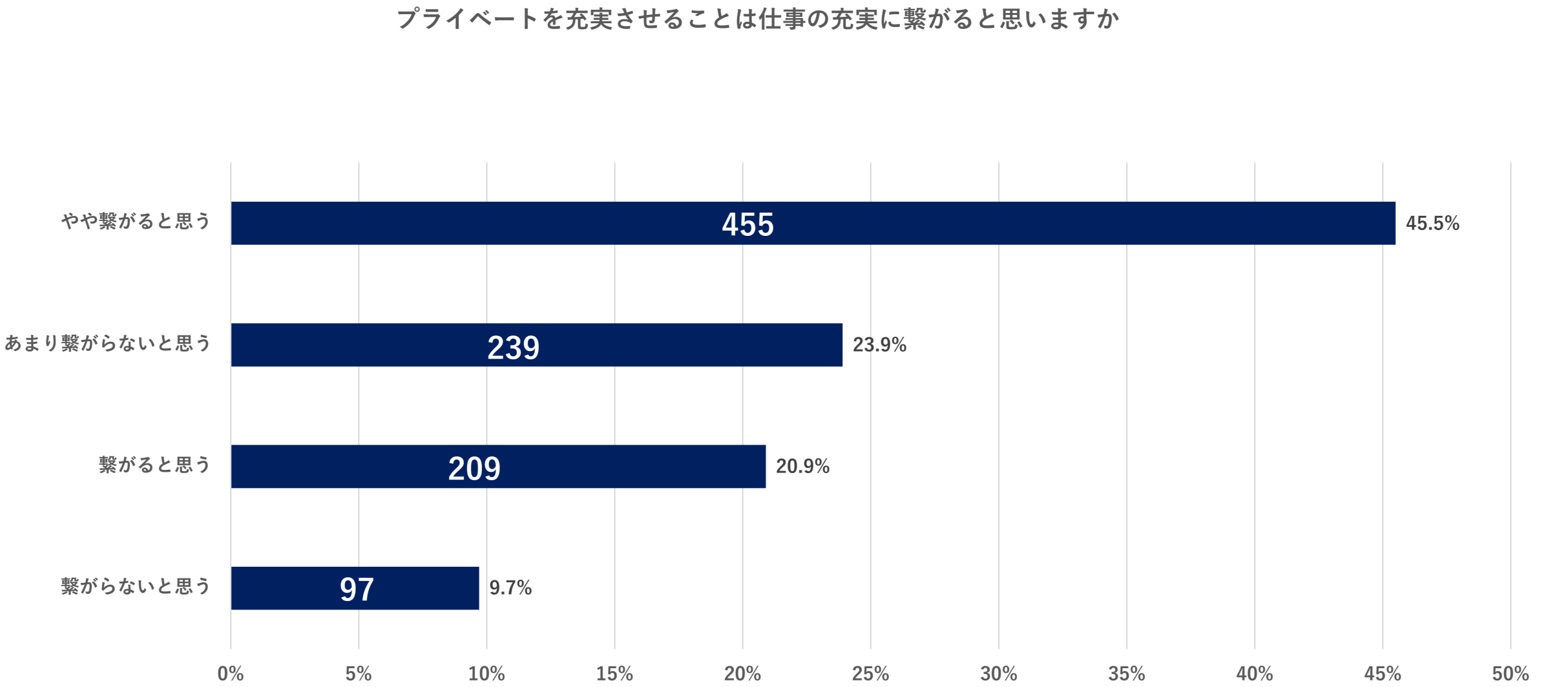
【性年代で見たときの傾向】
性別も加味して見ても、やはり30代男性が最も多く、次いで30代女性という結果になりました。一方で50代男性と50代女性では男女間の回答に差が出るような結果となりました。

【まとめ】
全体の回答として、「仕事の充実がプライベートの充実に繋がる」という方（仕事を充実させることはプライベートの充実に繋がると思いますかとの設問に対して「繋がると思う」または「やや繋がると思う」と回答）が62.6%という結果が出ました。そのため半数以上の方における仕事の充実とプライベートの充実には少なからず相関関係があることが分かります。年齢で見ると働き盛りと呼ばれる30代で最も強い相関関係が見られ、次いで40代という結果になりました。
今回の結果から、プライベートを充実させるために仕事を頑張る（充実させる）ことは多くの人に有効な手段であることが分かりました。
一見矛盾しているような話にも見えますが、実はプライベートと仕事は互いの充実感に影響を与え合っているのです。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q12 プライベートを充実させることは仕事の充実に繋がると思いますか

識学

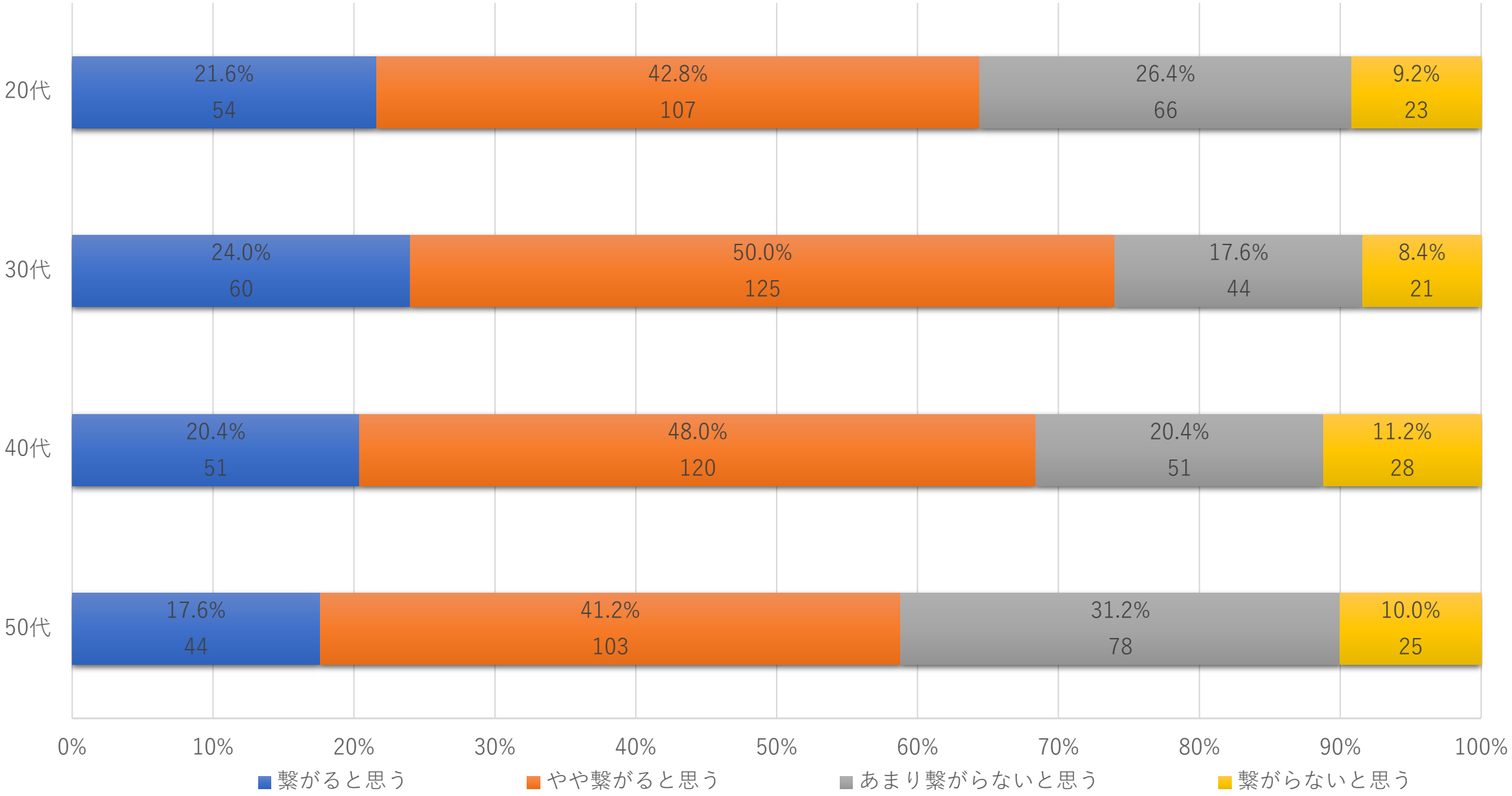


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q12　図1（年代別）

識学

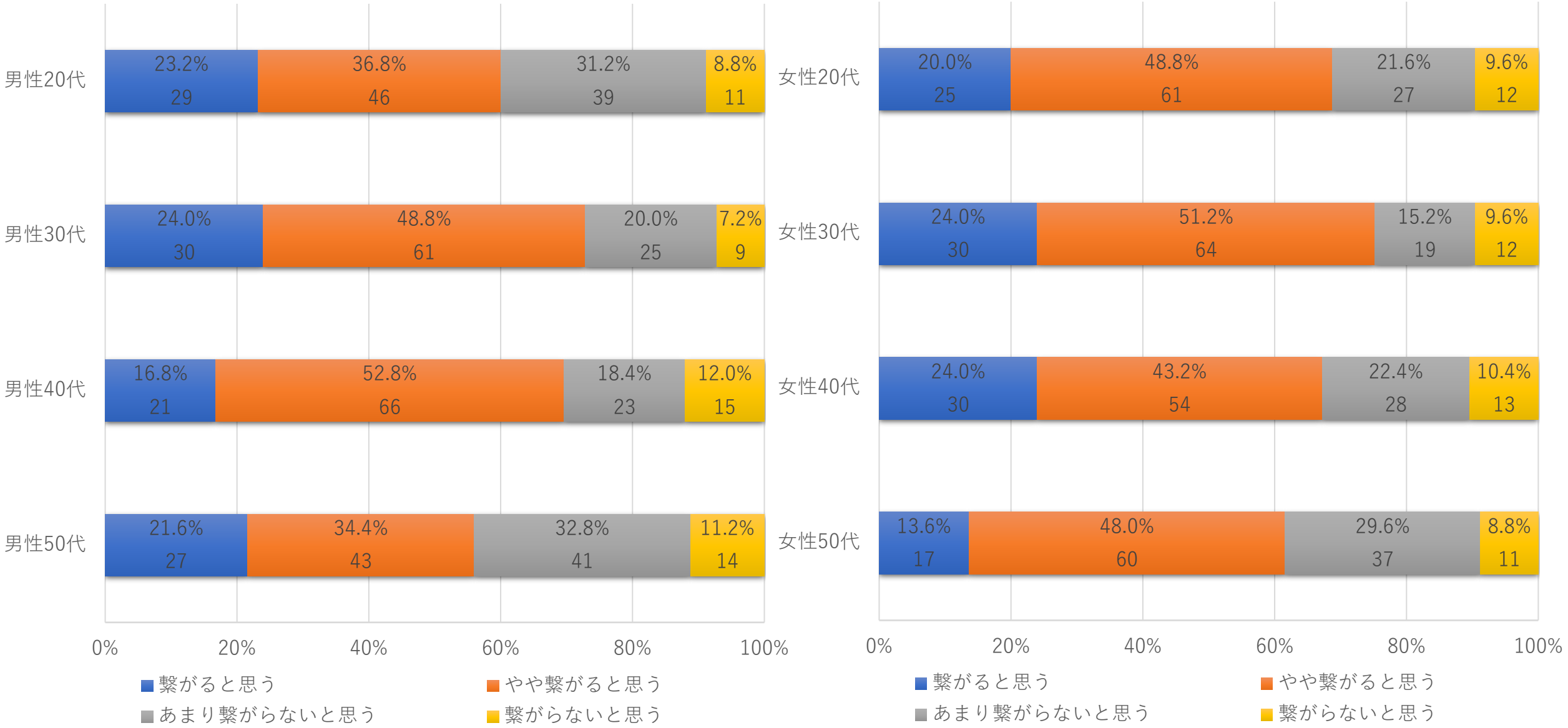


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q12　図2（性年代別）

識学



SHIKIGAKU CO., LTD.
Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目ではプライベートの充実が仕事の充実に繋がるかについて、アンケートを行いました。
こちらではアンケート回答者全体で、66.4%の方が繋がる旨の回答（「繋がると思う」または「やや繋がると思う」と回答）しました。
そして、回答を年代・性年代別でグラフ化したものが図1・図2になります。

【30代が最もプライベートの充実は仕事の充実に繋がると回答】
Q9と同じく、30代が最もプライベートの充実が仕事の充実に繋がると回答しました。また、全体の年齢層別の回答割合も30代→40代→20代→50代の順となりQ9と変化が無く、よく似た回答結果となりました。

【性年代で見たときの傾向】
性年代別でみると30代が最も多い回答をしていることはQ11と変わりませんが、男女間で入れ替わりが生じており、Q12では女性の方が回答割合が多いという結果になりました。また、20代から40代の女性についてはQ11と比較すると「プライベートの充実が仕事の充実に繋がる」と回答した方の割合が増える結果になったのに対し、50代女性はやや割合が減少し、同性間でもQ11と比較した時に差が出る結果となりました。

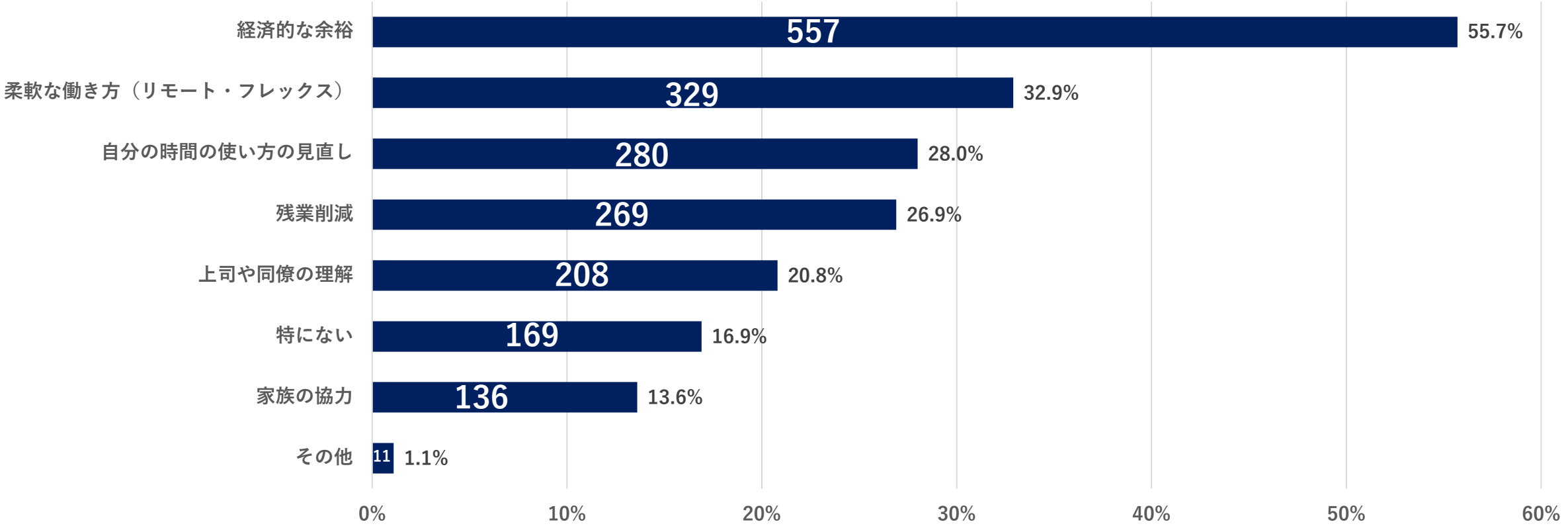
【まとめ】
Q11、Q12ともに全回答者の6割以上がプライベートと仕事どちらかの充実はどちらかの充実に繋がると回答（「繋がると思う」または「やや繋がると思う」と回答）しており、やはり仕事とプライベートの充実は互いに相関している方の割合が多いという結果が得られました。
特に30代では双方向に強い相関がみられました。
この結果から、プライベートを充実させようと思うと仕事が、仕事を充実させようと思うとプライベートが多くの人で重要になると言えます。
そう考えると、多くの人が知っている「ワークライフ・バランス」という言葉も、仕事を優先しすぎず、仕事とプライベートのバランスをとるという意味でなく、「どちらも充実させるためにどちらも大切にする」といった意味に捉えることが出来るのではないでしょうか。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q13 プライベートをより充実させるために必要なことは何だと思いますか

識学

プライベートをより充実させるために必要なことは何だと思いますか（複数回答可）

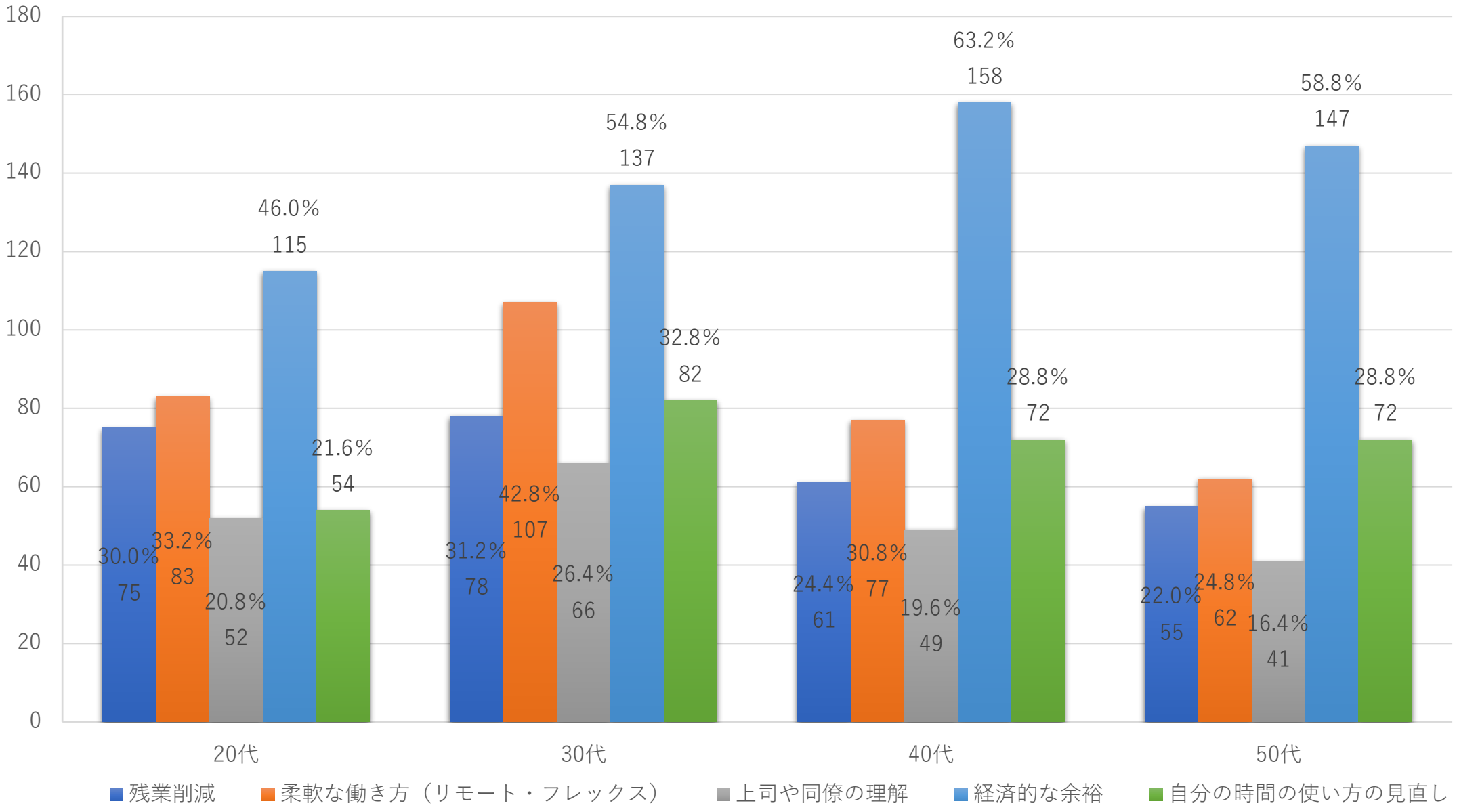


SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd. All rights reserved.

Q13　図1（年代別）

識学

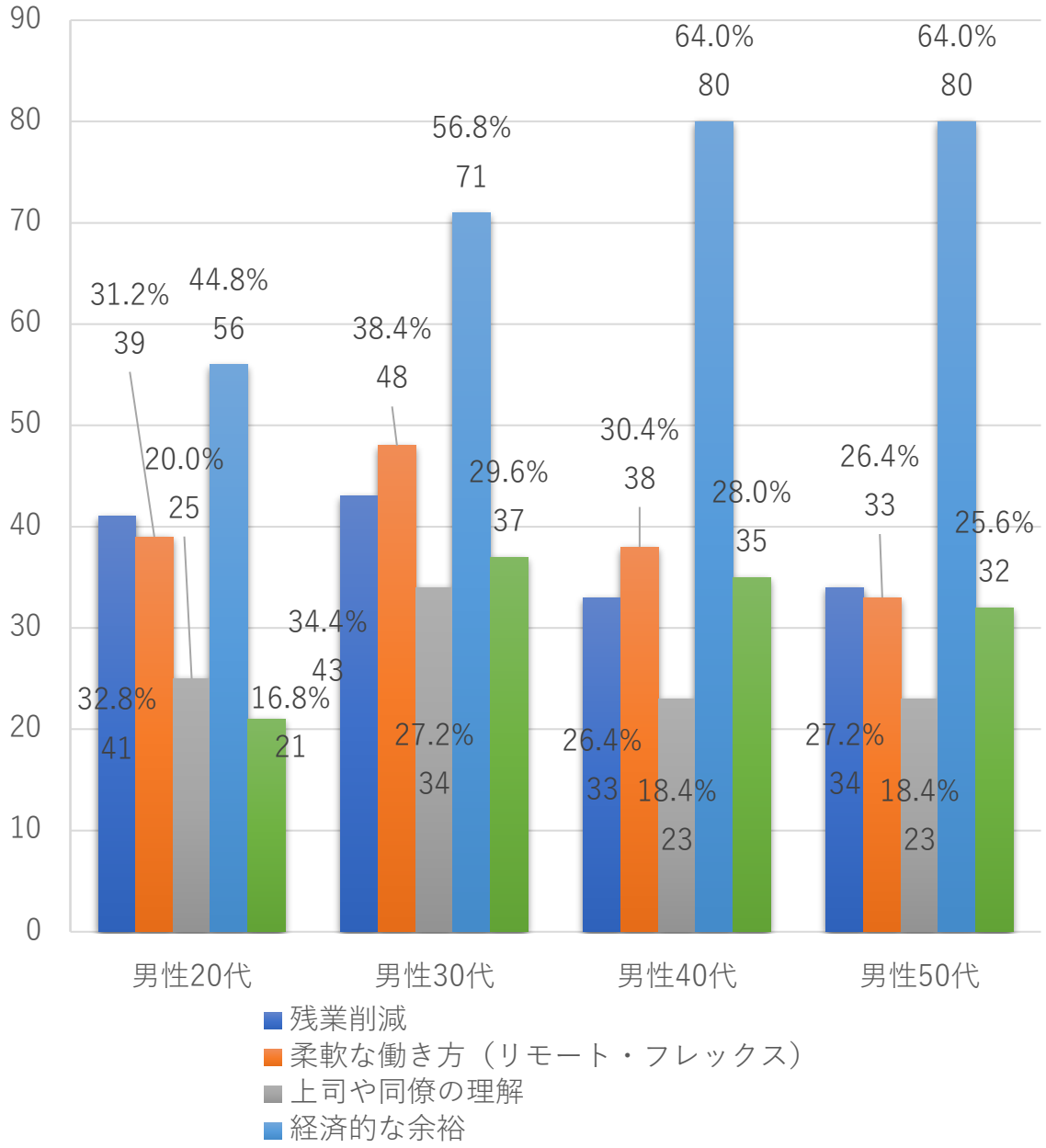


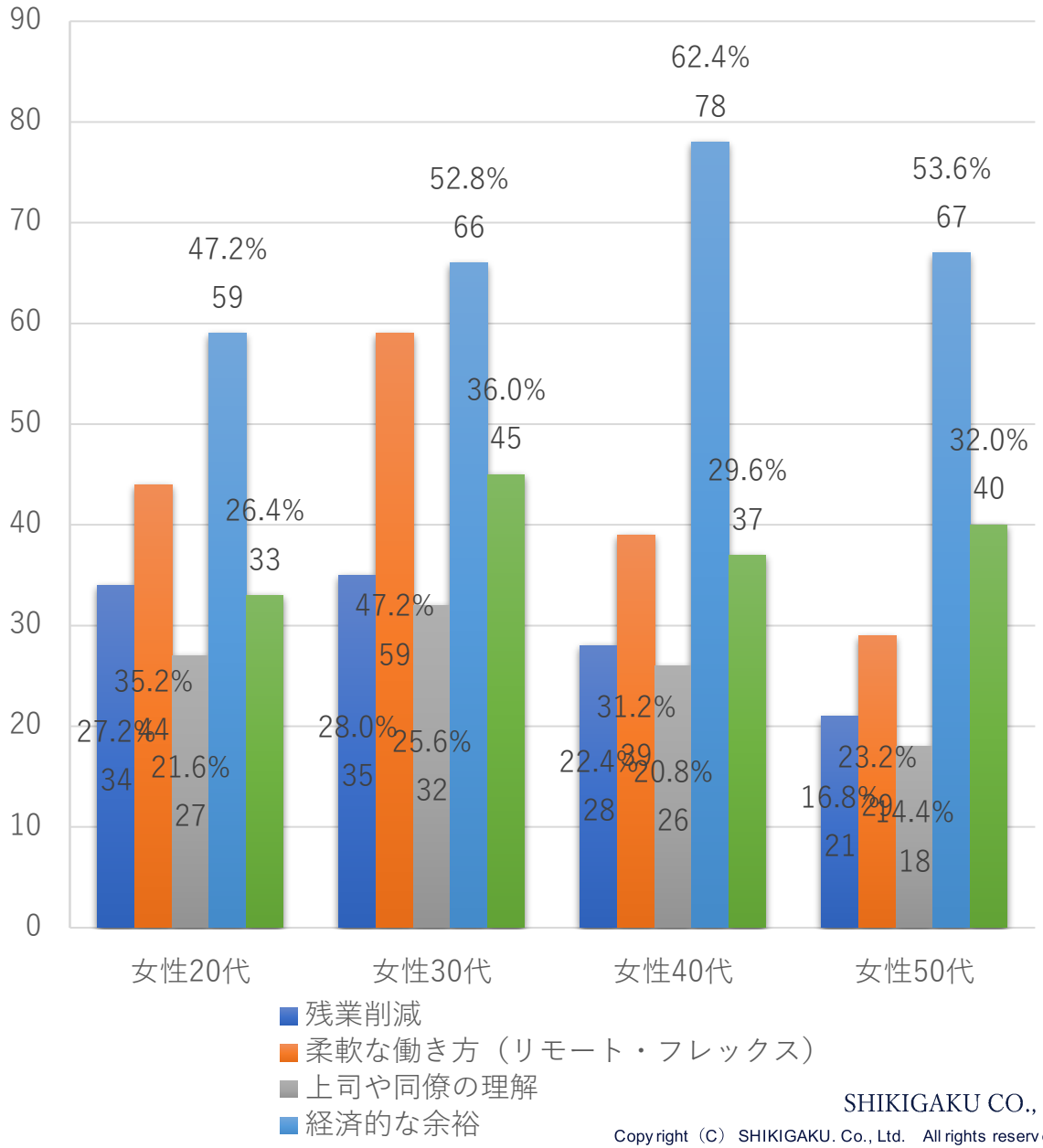
SHIKIGAKU CO., LTD.

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

Q13　図2（性年代別）

識学





SHIKIGAKU CO., LTD.
Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【グラフ概要】
本項目ではプライベート充実には何が重要かについてそれぞれアンケートを実施しました。
そして、回答を年代・性年代別でグラフ化したものが図1・図2になります。

【まとめ】
Q13について、プライベートをより充実させるために必要なことについてアンケートを行ったところ回答者の半数以上が「経済的な余裕」がプライベートの充実には必要と回答し、最多となりました。一方で柔軟な働き方や残業削減といった、仕事に関連する回答も散見され、プライベートの充実と仕事は互いに関わりあっていると考えられる結果となりました。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

【全体総評】
今回の調査レポートでは年齢や性別などの軸を中心に仕事とプライベート関係性について調査を行いました。その中で見えてきたのが「仕事とプライベートの相関性」です。
回答の中に男女差がある項目も散見されましたが、本調査全体を通して仕事の成功はプライベートにも影響を与え、仕事の充実はプライベートの充実に繋がるいった回答が多くの割合を占めました。また、その逆も然りであり、プライベートの充実や成功体験が仕事に影響を与えたり充実に繋がるといった回答も多く見受けられました。
具体的な数値などは各アンケート内容ごとの詳細をご覧いただければと存じますが、今回の結果を通して改めて考えたいテーマがございます。それは「ワークライフ・バランスとは何か」ということです。ワークライフ・バランスの定義を調べると「 ワークライフバランスとは、仕事（ワーク）とプライベートな生活（ライフ）の両方を調和させ、バランスを取ること」（※参照：
https://mba.globis.ac.jp/careernote/1679.html
）とあります。確かに今の時代では働き方改革が進み、今回の調査結果にもありますがプライベートを優先する方が多くいらっしゃるというのも事実です。もちろん、プライベートが重要なのは言うまでもなく当然のことかと思います。しかし、そのプライベートを充実させるための手段として仕事を充実させることが有効であると今回のアンケートで全体の6割以上が回答したこともまた事実なのです。すなわち今までの傾向としては「仕事**よりも**プライベート優先する」といった考え方がワークライフ・バランスという言葉の意味として捉えられることが多いように見受けられますが、実際は「**仕事を充実させることがプライベートの充実に繋がる**」と多くの人は認識しているということになるのです。
ここで言いたいことは、決してハードワークが正しいということではありません。言いたいのは本当のワークライフ・バランスというのは仕事とプライベートを切り離して考えるのではなく、一定の相関関係にあるという前提の上で考える必要があるということです。
もちろん、プライベートと仕事を分けるなと言っているわけではありません。ただ、ワークライフ・バランスを考える際には仕事とプライベートについて「ワークライフバランスとは仕事を充実させることでプライベートが、プライベートを充実させることで仕事が充実する。つまり、双方が互いの充実に繋がるもの」であるということを知っておくべきであるということです。
さらに言えば、プライベートの充実にはお金が必要というのが現実です。プライベートをより充実させるために必要なものは半数以上の方が「経済的な余裕」と回答していることからも、この認識は多くの方にあると考えられます。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.

では、具体的に経済的な余裕を得るためには何が必要でしょうか
それはやはり、仕事で成果をあげて評価を勝ち取り、昇給、昇格を目指すことでしょう。
この考えに立って考えると、「プライベートを充実させるために、仕事を頑張る」というのが新たなワークライフ・バランスの形、すなわちワークライフ・”ニュー”バランスになるのではないでしょうか。
そして、そのワークライフ・ニューバランスという考え方を本調査から多くの方に広げることで、一人一人の生活をより豊かにする一助になりますと幸いです。

Copyright（C） SHIKIGAKU. Co., Ltd.　All rights reserved.